

授業科目名： インターネット社会 のための情報倫理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 河村 泰之
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報社会・情報倫理		
授業の到達目標及びテーマ （授業のテーマ） 情報社会・情報倫理 （授業の到達目標） ・ 情報社会に関する法律にどのようなものがあるかを知り，その概要を理解する。 ・ 法と倫理の違いを理解する。 ・ 情報社会で守るべき法と倫理を理解する。 ・ 情報通信技術を用いる利便性と危険性のトレードオフを理解する。			
授業の概要 高等学校「情報」の免許科目である。今後の情報社会を生きる高校生に必要な知識や心構えを身につけさせるために必要なことを確認する。そのためにも基本的な情報技術（特にネットワークやセキュリティ）への理解が求められる。			
授業計画 第1回：ガイダンス、情報社会と情報倫理 第2回：インターネット社会と情報倫理 第3回：個人情報と知的財産権 第4回：ネットコミュニケーション 第5回：情報社会における生活 第6回：情報セキュリティ 第7回：時事問題 第8回：試験とまとめ			
テキスト 情報教育学会監修「インターネット社会を生きるための情報倫理 改訂版」、実教出版			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 期末試験（80％）および課題（20％）によって総合評価する。			

授業科目名： 情報社会と情報倫理	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：竹口幸志 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報社会 ・ 情報倫理		
授業の到達目標及びテーマ 本授業では、国内の情報利用動向、情報政策、情報法、情報教育、情報セキュリティについて理解し、受講生それぞれが情報社会に求められる情報倫理について考え、情報社会に参画する態度を養うことを目標とする。			
授業の概要 本授業では、国内の情報利用動向、情報政策、情報法、情報教育、情報セキュリティの各観点から情報社会に起こっている事象を取り上げる。情報社会に起こる様々な事象を理解することを通して、将来の情報社会の構築と情報倫理について検討し、受講生ひとり一人が情報社会に参画する態度を養う。			
授業計画 第1回：情報社会とは 第2回：近年の情報通信技術利用動向 第3回：近年の情報関連政策動向 第4回：情報と法1：表現の自由に係る問題と対応の検討 第5回：情報と法2：著作権に関わる問題と対応の検討 第6回：情報と法3：知的財産権に関わる問題と対応の検討 第7回：情報と法4：個人情報の保護に関する法律に関わる問題と対応の検討 第8回：情報と経済1：電子商取引における問題と情報倫理 第9回：情報と経済2：マーケティングにおける問題と情報倫理 第10回：情報と教育1：情報リテラシー育成の検討（情報活用能力、メディアリテラシーを含む） 第11回：情報と教育2：教育の情報化政策の動向 第12回：情報と教育3：情報モラル育成の検討 第13回：情報セキュリティ1：日本のサイバー環境が置かれる状況と情報セキュリティの動向 第14回：情報セキュリティ2：不正アクセス禁止法に関わる問題と対応の検討 第15回：情報セキュリティ3：プロバイダ責任制限法に関わる問題と対応の検討 定期試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等			

授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 毎回の授業の最後に実施する試験（60%），レポート（40%）

授業科目名： データ構造とアルゴリズム	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 河村 泰之 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ (授業のテーマ) データ構造とアルゴリズム (授業の到達目標) ・ コンピュータで情報を処理する際に必要なデータ構造を理解する ・ コンピュータで情報を処理するためのアルゴリズムの表現法を身につける ・ よく知られている基本的なアルゴリズムを理解する			
授業の概要 高等学校「情報」の免許科目である。コンピュータで情報を処理するための手順（アルゴリズム）に関する基本的な考え方を学ぶ。また、処理する際にデータをどのように蓄えられているかによって、処理の効率が変わってくることを経験し、その際に基本的なデータ構造を学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：アルゴリズムの記述 第3回：配列とリスト 第4回：スタックとキュー 第5回：グラフの表現 第6回：迷路の探索（深さ優先探索、幅優先探索）、およびその実習 第7回：木、平衡二分木、ヒープ 第8回：迷路の探索（ヒープを使った探索）、およびその実習 第9回：ハッシュ法 第10回：ハッシュ関数 第11回：ハッシュ法におけるデータの蓄え方、およびその実習 第12回：最短経路問題 第13回：最短経路を求めるアルゴリズム 第14回：課題 第15回：試験とまとめ			

テキスト 浅野哲夫「データ構造」、近代科学社
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 期末試験（80％）および課題（20％）によって総合評価する。

授業科目名： プログラミング言語I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 河村 泰之
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ （授業のテーマ） プログラミング言語 （授業の到達目標） ・ プログラミングに必要な基礎知識を身につける ・ 条件分岐、繰り返し、配列、関数を使った基本的なプログラムを作成できる ・ プログラムの間違ったところを特定（エラーやバグなどを発見）する方法を身につける			
授業の概要 高等学校「情報」の免許科目である。前半はプログラミングに触れたことのない入門者を想定している。しかし、小学校からプログラミングを学んでいる高校生に授業をするには、入門でとどまるわけにはいかない。後半では与えられた課題について、各自で十分な時間を取って演習に取り組むことが求められる。			
授業計画 第1回：ガイダンス、プログラミング環境の確認 第2回：簡単な式や変数の扱い 第3回：条件分岐 第4回：繰り返し 第5回：配列 第6回：関数 第7回：デバッグの考え方 第8回：試験または課題 第9回：試験または課題の解説 第10回：演習課題1 例：複雑な条件分岐 第11回：演習課題2 例：複雑なループ構造 第12回：演習課題3 例：複雑な組み合わせ 第13回：演習課題4 例：再帰関数 第14回：演習課題5 例：参照渡しと値渡し			

第15回：試験または課題、まとめ
テキスト 必要な情報を web で示す。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 試験または課題（100%）

授業科目名： ヒューマンインタフェース	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田 貴志
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ （授業のテーマ） コミュニケーションにおける身体性の役割 （授業の到達目標） 1. ヒューマンインタフェースの概念と歴史を説明できる。 2. 情報システムとしての人間特性に関する基礎的な知識を習得できる。 3. インタラクションの要素としてのコンピュータに関する基礎的な知識を習得できる。 4. インタフェースのデザイン・評価に関する基礎的な知識を習得できる。 5. ヒューマンインタフェースの可能性を表現できる。			
授業の概要 人間と情報機械、情報機械を介した人間のインタラクションを円滑にし、コミュニケーションを支援することがヒューマンインタフェースの主要な目的である。本授業では、この目的を達成する過程でのインタラクションに焦点を当て、情報システムとしての人間特性、インタラクションの要素としてのコンピュータ、インタフェースのデザイン・評価について実習を交えて概説するとともに、先進的インタフェースについて紹介する。さらに、先進的インタフェースに関する自らの提案発表を通じて、ヒューマンインタフェースの本質を能動的に理解する。 ※授業形態：オンライン同期型			
授業計画 第1回：ヒューマンインタフェースの概要 第2回：情報システムとしての人間特性（1）認知特性 第3回：情報システムとしての人間特性（2）感性とインタラクション 第4回：インタラクションの要素としてのコンピュータ（1）入力機器とのインタラクション 第5回：インタラクションの要素としてのコンピュータ（2）出力機器とのインタラクション 第6回：インタフェースのデザイン・評価（1）デザインの技法 第7回：インタフェースのデザイン・評価（2）評価の技法 第8回：先進的インタフェースのトピックス（1）バーチャルワールド 第9回：先進的インタフェースのトピックス（2）リアルワールド			

第10回：先進的インタフェースの提案発表（1）テーマの設定

第11回：先進的インタフェースの提案発表（2）調査

第12回：先進的インタフェースの提案発表（3）資料の作成

第13回：先進的インタフェースの提案発表（4）発表

第14回：先進的インタフェースの提案発表（5）全体交流

第15回：まとめ

テキスト

授業中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

西田正吾著、電子情報通信学会編：ヒューマンインタフェース、コロナ社

田村博編：ヒューマンインタフェース、オーム社

学生に対する評価

質疑応答・グループワークの学習態度（30%）とレポート・発表（70%）により評価する。

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：福谷 遼太
情報工学 I	選択科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 (授業のテーマ) コンピュータおよびネットワークの基本的な構成と動作原理に関する知識を修得する。 (授業の到達目標) ● コンピュータの基本的な構成と動作原理について説明できる。 ● コンピュータ・ネットワークの基本的な動作原理について説明できる。 ● コンピュータ・プログラムの基本的な動作原理について説明できる。			
授業の概要 情報技術の基本的な仕組みや動作原理について扱う。授業形態はオンライン同期型と非同期型の併用を前提とし、実習を伴う内容はオンライン同期型にて実施する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション／近年の情報技術 第2回：教育の情報化 第3回：コンピュータの歴史 第4回：コンピュータシステムの基本構成と動作原理 第5回：情報の表現（2進法，10進法，16進法／数値データ，文字データ，音声・画像データ） 第6回：論理回路とCPU 第7回：記憶装置と周辺機器 第8回：機器選定の実践① 端末の選定 第9回：機器選定の実践② 選定した端末に関する発表 第10回：OSとアプリケーション 第11回：ネットワーク 第12回：セキュリティ 第13回：プログラムとアルゴリズム 第14回：Scratchを用いたプログラミングによる問題解決の実践① プログラムの実装 第15回：Scratchを用いたプログラミングによる問題解決の実践② 実装したプログラムに関する発表 定期試験			
テキスト [必携] 安井 浩之，木村 誠聡，辻 裕之，“基本を学ぶ コンピュータ概論（改訂2版）”，オーム社，2019.			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 期末試験（60%），授業における課題への取り組み状況（30%），授業における質問・発問への応答（10%）で総合的に評価します。			

授業科目名： 情報工学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 福谷 遼太・道法 浩孝・ 相良 宗臣
			担当形態： 複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 （授業のテーマ） システムやアプリケーションの設計理論について学習した上で、アプリケーション開発などの実習を通じて、システム・アプリケーション開発に関する知識・技能の修得・向上を図る。 （授業の到達目標） ● UIやレイアウトを考慮してアプリケーションを適切に設計できる。 ● 設計したアプリケーションを開発することができる。 ● プログラミングを通じて身近な課題を解決できる。			
授業の概要 Pythonを用いてアプリケーションを開発する。授業形態はオンライン同期型と非同期型の併用を前提とし、実習を伴う内容はオンライン同期型にて実施する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（福谷・道法・相良） 第2回：さまざまな情報システム① ～IoT, VR, MR, AR～（福谷） 第3回：さまざまな情報システム② ～人工知能～（福谷） 第4回：さまざまな情報システム③ ～学習支援システム／校務支援システム～（福谷） 第5回：さまざまな情報システム④ ～身近なアプリケーション～（福谷） 第6回：システム開発 ～設計理論～（福谷・道法・相良） 第7回：システム開発 ～UI・色彩理論～（福谷・道法・相良） 第8回：システム開発 ～要求分析～（福谷・道法・相良） 第9回：システム開発 ～環境構築～（福谷・道法・相良） 第10回：システム開発 ～テキスト入力、ボタン設置～（福谷・道法・相良） 第11回：システム開発 ～画面遷移、権限～（福谷・道法・相良） 第12回：システム開発 ～外部ファイルの活用～（福谷・道法・相良） 第13回：システム開発 ～センサの活用～（福谷・道法・相良） 第14回：システム開発 ～実装～（福谷・道法・相良） 第15回：システム開発 ～成果発表～（福谷・道法・相良） 定期試験は実施しない。			
テキスト 授業中に適宜資料を配布する			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する			
学生に対する評価 授業における課題への取り組み状況（60%），最終課題（30%），授業における質問・発問への応答（10%）により，総合的に評価します。			

授業科目名： 計測・制御システムの 設計	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大西 義浩 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報システム(実習を含む。)		
授業の到達目標及びテーマ (授業のテーマ) コンピュータによる計測と制御を題材として，その関連技術を取り扱う。 (授業の到達目標) ・ センサの役割を理解する。 ・ A/D変換の原理を理解する。 ・ システムのモデル化とその特性を理解する。 ・ 制御目的にあったP I D制御のパラメータ調整ができる。			
授業の概要 本授業は，数学，電気，情報関連の知識をベースとして，身の回りの機器がどのような仕組みで動いているのかを学ぶものである。現在，コンピュータの普及，低価格化に伴い，自動車や家電など多くの機器にコンピュータが組み込まれている。これらはセンサによって周囲の状況を計測し，その情報に基づいて制御を行っている。本授業では，身のまわりの機器がどのように計測し，制御されているかを理解する。アナログ信号とデジタル信号の違い，センサによる計測，システムの特性，P I D制御系設計などについて学習する。			
授業計画 (同期型) 以外は非同期遠隔授業として実施する。 第1回：ガイダンス 第2回：ハードとソフト，制御とは 第3回：センサ 第4回：A/D変換の原理 第5回：モデリングとシミュレーション 第6回：システム同定 第7回：システムの安定性 第8回：1次遅れ要素，2次遅れ要素 第9回：制御系設計の実習（同期型） 第10回：比例制御の実習（同期型）			

第11回：定常偏差と積分動作の実習（同期型）

第12回：過渡特性の改善と微分動作の実習（同期型）

第13回：AIと計測制御

第14回：計測制御技術の応用とSociety5.0への貢献

第15回：期末試験とまとめ（同期型）

テキスト

教材を web 上で配布する。

参考書・参考資料等

なし。

学生に対する評価

期末試験（50%）および小テスト，課題（50%）によって総合評価する。

授業科目名： 情報システム開発演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 道法 浩孝 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報システム（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 （授業のテーマ） コンピュータシステム及び計測・制御システムを中心に、情報システムに関する知識と、システム開発及びプログラミングに関する技術を習得する。 （授業の到達目標） ・ 情報システム（コンピュータシステム及び計測・制御システム）を科学的原理・法則に基づいて説明できる。 ・ コンピュータを用いた計測・制御システムの設計・実装ができる。 ・ 計測・制御システムを目的に応じて動作させるためのプログラミングを行うことができる。			
授業の概要 具体的なシステムに基づいて、コンピュータシステム及び計測・制御システムについて学習するとともに、計測・制御システムの設計・実装及びプログラミングに関する実習を行う。 授業形態：オンライン同期型、実習部分は対面（集中講義）で実施。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、情報システム 第2回：情報システム（1）（ハードウェア） 第3回：情報システム（2）（ソフトウェア） 第4回：情報システム及び計測・制御システムの仕組み 第5回：計測・制御システム（1）（センサ、インタフェース） 第6回：計測・制御システム（2）（アクチュエータ等、インタフェース） 第7回：情報システム及び計測・制御システムにおけるコンピュータによる情報処理の仕組み 第8回：計測・制御システムの設計（1）（問題発見と課題設定） 第9回：計測・制御システムの設計（2）（センサ、コンピュータ及びアクチュエータ等） 第10回：計測・制御システムの実装（1）（センサ及びアクチュエータ等） 第11回：計測・制御システムの実装（2）（システム全体の実装） 第12回：計測・制御システムに対するプログラミング（1）（プログラムの制作） 第13回：計測・制御システムに対するプログラミング（2）（プログラムの実行とデバッグ） 第14回：計測・制御システムに対するプログラミング（3）（プログラムの修正） 第15回：講義のまとめ 定期試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 試験（30％）、レポート（30％）、計測・制御システムとプログラムの成果（40％）			

授業科目名： 情報ネットワーク活用	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 玉井 輝之
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報通信ネットワーク（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ （授業のテーマ） 高等学校情報科における学習指導に必要な知識・技能を習得する。 （授業の到達目標） ・ プログラミングによる情報通信ネットワークの活用ができる。 ・ カメラやセンサ及びアクチュエータを利用できる。 ・ データを蓄積，管理，提供する方法を理解する。			
授業の概要 この授業では，高等学校情報科に関連した，プログラミングによる情報通信ネットワークの活用や情報通信ネットワークとデータに関する知識・技術および課題解決能力を身に付ける。			
授業計画 第1回：プログラミングとWebサービス 第2回：Webサービスを活用したプログラミング 第3回：Webサービスを活用したプログラミングの課題設定 第4回：Webサービスを活用したプログラミングの課題解決の実習 第5回：ネットワークプログラミングの構成 第6回：ネットワークを使用したデータの転送 第7回：ネットワークプログラミング 第8回：ネットワークプログラミングの課題設定 第9回：ネットワークプログラミングの課題解決の実習 第10回：センサやアクチュエータの利用 第11回：センサやアクチュエータを利用したの課題設定 第12回：センサやアクチュエータを利用したの課題解決の実習 第13回：情報ネットワークを活用した統合的な課題設定 第14回：情報ネットワークを活用した統合的な設計 第15回：情報ネットワークを活用した統合的な課題解決の実習			

テキスト

特定の教科書は用いない。適宜プリントを配布する。

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

レポート・設計課題（40%），制作課題（60%）

授業科目名： 情報通信 ネットワーク論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：相良 宗臣
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報通信ネットワーク（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 （授業のテーマ） 高等学校の「情報」における「情報の科学的な理解」に必要な情報通信ネットワークについて学習する。特に、情報通信ネットワークにおける通信方法およびセキュリティ対策に関して学習を行う。 （授業の到達目標） 1. 情報通信ネットワークの仕組みや特徴を正しく理解できる。 ➤ スマートフォンや無線LANなどワイヤレス通信の仕組みや特徴，セキュリティについて説明できる。 ➤ インターネットの全般的な仕組みや特徴，セキュリティを確保するための手法を説明できる。 ➤ 基本的なネットワークの構築ができる。 2. 情報ネットワークおよび提供されるサービスを効率的かつ安全に使用できる。			
授業の概要 身近にある通信機器がどのように通信を行っているかを理解する。また、情報ネットワークを実践的に活用するために必要な基本的な知識および技術を修得する。 授業形態：オンライン同期型			
授業計画 第1回：ガイダンス、情報通信の基礎(定義，歴史，通信モデル) 第2回：情報の伝送方法（変調，多重化） 第3回：情報のスイッチング方法（回線，パケット） 第4回：モバイル・ワイヤレス通信の基礎（進展，周波数） 第5回：携帯電話(スマートフォン)の基本方式（認証，位置情報，チャンネル切り替え） 第6回：LANの概要とイーサネット（歴史，トポロジー） 第7回：ワイヤレスLANの概要（規格，セキュリティ対策） 第8回：インターネットの概要（仕組み，歴史，標準プロトコル） 第9回：インターネットの通信プロトコル（TCP/IP，各階層の構成） 第10回：インターネットの通信プロトコル（TCP/IP，インターネット層） 第11回：IPアドレスとルーティング（NAT・PAT，サブネット，OSPF，RIP） 第12回：ネットワーク構築（実習） 第13回：インターネットのセキュリティ（概要，暗号） 第14回：インターネットのセキュリティ（認証方式，その他） 第15回：まとめ（期末試験の注意，関連トピック，キーワード） 定期試験			
テキスト 授業時に資料の配布を行う			
参考書・参考資料等 特になし。			
学生に対する評価 中間レポート（35点），期末試験（35点），毎回の課題（30点）			

授業科目名： マルチメディア基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 原本 博史
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 （授業のテーマ） 画像処理や音声処理の基礎となる数学的原理のうち、Fourier変換を中心に解説する。 （授業の到達目標） 画像及び音声圧縮に関する数学的原理とその計算機実装を理解する			
授業の概要 Fourier変換に関する基本的な事項を解説する。また適宜画像および音声圧縮に関するプログラミング演習を行い、理解を深める。			
授業計画 第1回：無限級数とFourier級数 第2回：Fourier変換とその性質 第3回：離散Fourier変換 第4回：離散cosine変換 第5回：高速Fourier変換 第6回：計算機でのFourier変換の実装(プログラミング実習) 第7回：画像の非可逆圧縮 第8回：画像の可逆圧縮 第9回：JPEGの圧縮原理の実装(プログラミング実習) 第10回：標本化定理 第11回：音響データの非可逆圧縮 第12回：音響データの可逆圧縮 第13回：音響データの圧縮の実装(プログラミング実習) 第14回：AI・データサイエンスと信号処理 第15回：画像の時系列解析(プログラミング実習) 期末試験			
教科書 新井 仁之，フーリエ解析とウェーブレット，朝倉書店，2022年			

参考書・参考資料等

微分積分および線形代数の教科書を併用するので教養課程で使用了たものを準備すること

学生に対する評価

期末試験（60％）および課題（40％）によって総合評価する。

授業科目名： マルチメディア技術	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮崎 英一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む）		
授業の到達目標及びテーマ （授業のテーマ） 最近、Society5.0やAIといった新しい情報世界が我々の日常生活に訪れている。これらの進展に伴い、マルチメディア技術も日々急速に発展し続けており、学習指導要領の「マルチメディア表現」においてもこれらに対応できる人材の育成が望まれている。本講義では、基礎的なマルチメディア作品の制作を通じて、今後のマルチメディア技術に対応できる人材の確立をめざす。 （授業の到達目標） 1. マルチメディア技術の基礎的な知識を理解できる。 2. 基本的なマルチメディア作品を作成できる。 3. マルチメディアを通して情報社会の問題を考えることができる。			
授業の概要 本講義は、高校専門教科「情報」の各科目において習得した知識とプログラミング技術を互いに連携づけながら初歩的なマルチメディアを活用した作品の制作を行う。この制作において、従前に各科目で習得した知識とプログラミング技術を生かしてマルチメディア技術の特性を生かした作品を制作し、これを通じて情報の基礎的知識やプログラミング技術の体得を目指す。更には、本講義を通して実際の「情報」授業に活用できる能力や態度を涵養する。 ※授業形態：オンライン同期型			
授業計画 第1回： マルチメディアとは デジタルメディアについて 第2回： マルチメディアとインターネット マルチメディアでの著作権 第3回： 体験的コンピュータシミュレーション（水の流れ） 第4回： 体験的コンピュータシミュレーション（きつねとうさぎの生息数） 第5回： VBAによるプログラミング学習（マクロの応用） 第6回： VBAによるプログラミング学習（VBAによるエクセル制御） 第7回： ビジュアルプログラミングの学習（応用課題作成） 第8回： これまでの応用課題の発表と評価			

- 第9回： Scratchを用いてAIで音声・画像認識基礎（Teachable Machineを用いて）
- 第10回： Scratchを用いた学習進度に応じてレベルアップする計算ドリルの作成
- 第11回： Scratchを用いた多言語案内板の作成
- 第12回： マルチメディア作品コンペ オリジナルのマルチメディア作品を考える
- 第13回： マルチメディア作品制作 オリジナルのマルチメディア作品基礎作成
- 第14回： マルチメディア作品制作 オリジナルのマルチメディア作品拡張追加
- 第15回： マルチメディア作品制作発表と評価 オリジナルのマルチメディア作品発表

テキスト 授業中にマルチメディア教育の基礎となる資料及びWEB上の動画のURL等適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

出席態度及び発言貢献度（30％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（30％）、最終課題（40％）

授業科目名： デジタル画像処理		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数： 2単位		担当教員名： 黒田 勉	
						担当形態： 単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）					
授業の到達目標及びテーマ （授業のテーマ） デジタル画像処理とは、コンピュータで認識した画像に様々な処理を施すことによってその画像に含まれる情報を読み取る技術であり、種々の情報処理システムにおいて広く用いられている。ここでは、画像情報処理の基本について概説する。 （授業の到達目標） 画像情報処理の基本について様々な手法を理解し、生徒に説明できるように理解する。							
授業の概要 デジタル画像処理とは、コンピュータが取得した画像情報を読み取り、各種処理を通してユーザーに認識させることである。このとき、画像の取得から処理の仕組みまで概説する。さらに3時限グラフィックスの基本的試行について解説する。※授業形態：オンライン同期型							
授業計画 第1回：本講義の意義と目的について知る 第2回：画像処理の基本1，デバイスの概要 第3回：画像処理の基本2，計測環境と照明 第4回：画像処理の基本3，色彩 第5回：基本的な画像処理手法1，輝度分布（ヒストグラム） 第6回：基本的な画像処理手法2，二値化，多極化画像 第7回：基本的な画像処理手法3，画像の数学的考察 第8回：基本的な画像処理手法4，雑音除去（平滑化处理，ノイズフィルタ） 第9回：基本的な画像処理手法5，エッジ処理（微分），細線化，輪郭線抽出 第10回：基本的な画像処理手法6，各種フィルタ 第11回：点，直線の画像認識手法 第12回：各種形状の画像認識手法 第13回：2次元画像処理の応用 第14回：3次元画像処理（コンピュータグラフィックスの基礎） 第15回：3次元画像処理（CADにおける論理演算）							

テキスト

大崎紘一他，画像認識システム学

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

各講義時間毎のレポート提出（50％），ならびに，実習結果（50％）により評価を行う．

授業科目名 情報社会の発展と職業	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大西 義浩 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報と職業		
授業の到達目標及びテーマ (授業のテーマ) 情報と職業 (授業の到達目標) 以下の項目を理解し， ・ 情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響 ・ 望ましい情報社会の発展 ・ 情報社会の将来と情報産業 情報化により生活や社会がどう変わり，どのような職業が出現したかを考える。			
授業の概要 高等学校「情報」の免許取得に必修の科目である。情報技術が実社会でどのように使われており，また，情報関連の職種にはどのようなものがあるかを知ることで，「情報」の教員としての授業実践力および生徒への進路指導等を行なえる能力を身につけることを目的としている。			
授業計画 (同期型) 以外は非同期遠隔授業として実施する。 第1回：ガイダンス 第2回：情報技術の発展と社会の変化 第3回：サービス業における情報技術 第4回：製造業における情報技術 第5回：社会基盤における情報技術 第6回：グループワーク（課題説明・戦略作成）（同期型） 第7回：グループワーク（設備の検討）（同期型） 第8回：グループワーク（維持コスト検討）（同期型） 第9回：グループワーク（リスク検討）（同期型） 第10回：グループワーク（発表準備と仕上げ）（同期型） 第11回：情報技術発展に伴う負の面について（非同期） 第12回：情報関連の職種とキャリアパス（非同期）			

第13回：進路指導について（非同期）

第14回：模擬面接指導（同期型）

第15回：期末試験とまとめ（同期型）

テキスト

教材をweb上で配布する。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

期末試験（40％）およびグループワークを含む課題（60％）によって総合評価する。

授業科目名： 情報・職業	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：黒田 勉 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分	教科に関する専門的事項 ・情報と職業		
授業のテーマ 情報社会での生活、情報社会と高等教育、情報技術と社会の変革、情報技術と人材育成、国際化、メディアの活用について概説し、就職・進路指導方法について、情報化社会を高校生に理解させる方法について理解する。			
授業の到達目標 各項目についての内容を、生徒に指導できるようになること。			
授業の概要 本講義の意義を解説する。そして、情報社会での生活、情報社会と高等教育、情報技術と社会の変革、情報技術と人材育成、国際化、メディアの活用について概説する。			
授業計画 第1回：情報化社会と職業：本講義の意義 自己学習課題：何故教職を目指すのか 第2回：情報化社会と職業：産業界の体質変化 第3回：情報化社会と職業：職業指導と雇用制度 第4回：情報化社会と私たちの生活：危機管理 第5回：情報化社会と私たちの生活：高齢化社会と学習社会 第6回：情報化社会と高等教育：生涯学習 第7回：情報化社会と高等教育：授業計画の作成 第8回：情報技術と社会の変革：情報と情報通信技術 第9回：情報技術と人材育成：資格とその認知・情報産業 第10回：情報社会と国際化/グローバル化：情報技術革命とは・インターネット 第11回 情報社会と国際化/グローバル化：国際規格とグローバル化 自己学習課題：指導案の立案 第12回：情報社会と国際化/グローバル化：ビジネスモデルと倫理 第13回：情報技術とメディアの活用：情報技術を利用した協働 第14回：情報技術とメディアの活用：情報技術と消費行動 自己学習課題：情報化社会について 第15回：情報技術とメディアの活用：知的財産の保護と活用 自己学習課題：相互評価を行う			
テキスト 近藤勲編著，情報と職業，丸善，2002			
参考書・参考資料等 文部科学省学習指導要領「高等学校・情報」，「中学校・技術家庭科」（最新年度のもの）			
学生に対する評価 必要に応じて演習・討論を行ったレポートの提出，講義末の課題に対するレポートによる。			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：山口 直木
情報変革と職業	選択科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	・ 情報と職業		
授業のテーマ及び到達目標			
【テーマ】			
・ デジタル社会における職業や職業に対する考え方の変化			
・ デジタル社会での教育と職業指導の変化			
【到達目標】			
・ デジタル化による社会の変化			
・ デジタル社会における職業や職業に対する考え方の変化			
・ デジタル社会での教育と職業指導の変化			
以上の事項を理解し、その内容を生徒に指導できるようになること。			
授業の概要			
デジタル社会で必要となる技術や知識，それに伴う職業の変化を講義し，それらによる教育現場の変化と職業指導への影響を解説する。			
授業計画			
第1回：社会・企業におけるデジタル化の現状			
第2回：政策としてのデジタル化			
第3回：デジタル化を支える技術：AI，IoTなど			
第4回：デジタル化を支える技術：セキュリティ，ネットワークなど			
第5回：デジタル化を支える技術：プログラミングなど			
第6回：デジタル化を支える技術：データ分析など			
第7回：デジタル社会での働き方			
第8回：デジタル社会で必要となる人材			
第9回：デジタル社会で働く意味			
第10回：デジタル社会で生きる職業人の考察			
第11回：教育現場のデジタル化の実例			
第12回：デジタル社会での教育現場の変化：技術，設備，人材育成など			
第13回：デジタル社会での教育現場の変化：セキュリティ，個人情報など			
第14回：教育現場のデジタル化と職業指導への影響			
第15回：全体のまとめとレポートによる振り返り			
定期試験は行わない。			

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

文部科学省『高等学校学習指導要領』2019年

学生に対する評価

授業におけるレポート課題の内容によって評価する。

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：
情報科教育法 1	必修科目	2 単位	黒田勉、河村泰之
			担当形態：
			複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ (授業のテーマ) 情報科教育法 1 (授業の到達目標) ・ 高等学校の教科「情報」の教育目標を理解する ・ 小中学校との関連、総合的学習における位置づけなどを意識し、情報社会における教育課題に対応できる高校教員になるための態度を養う			
授業の概要 高等学校「情報」の免許取得に必修の科目である。教科「情報」の成り立ちを概観し、情報教育に求められていることを学ぶ。また、教科で扱う内容の基本事項を確認する。その上で、指導案を作成し、授業づくりについてポイントを整理する。			
授業計画 第1回 ガイダンス，学習指導要領の概説と教員養成の仕組み 第2回 情報科の成立過程と科目編成 第3回 「情報Ⅰ」で扱う内容 第4回 「情報Ⅰ」での学習 第5回 「情報Ⅱ」で扱う内容 第6回 「情報Ⅱ」での学習 第7回 課題学習「特色ある情報教育の取り組みの調査」 第8回 専門教科「情報」で扱う内容：「情報産業と社会」を中心に 第9回 専門教科「情報」で扱う内容：「情報の表現と管理」を中心に 第10回 専門教科「情報」で扱う内容：「情報セキュリティ」を中心に 第11回 専門教科「情報」で扱う内容：「情報テクノロジー」を中心に 第12回 指導計画案の作り方（情報通信技術の活用を含む） 第13回 指導案の検討，指導上の注意や指導内容のポイント整理（情報通信技術の活用を含む） 第14回 評価について 第15回 試験とまとめ			

テキスト 文科省「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 情報編」
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 期末試験（40％）および課題（60％）によって総合評価する。

授業科目名： 情報科教育法 2	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 河村 泰之
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ （授業のテーマ） 情報科教育法 2 （授業の到達目標） 情報科教員として必要な教科指導上の基礎的知識及び教科・科目の内容を、学習指導案の計画・作成・評価等、模擬授業、評価等を通して理解・修得する。 教科「情報」の指導方法として具体的な授業場面を想定した授業設計を行う。そして、その学習指導案の作成と評価、模擬授業の実施と評価等を通して、情報科の指導法がいかにあるべきかを考え、身に付けることができるようにする。			
授業の概要 情報科教員として必要な教科指導上の基礎的知識及び教科・科目の内容を、学習指導案の計画・作成・評価等、模擬授業、評価等を通して理解・修得する。実施された模擬授業について相互に意見を交換し検討する機会を設ける。			
授業計画 第 1 回：ガイダンス、教科「情報」の目標と内容 第 2 回：情報教育の事例（情報通信技術の活用を含む） 第 3 回：学習指導計画の立案 第 4 回：学習指導案の作成（情報通信技術の活用を含む） 第 5 回：教材の内容 第 6 回：教材開発（情報通信技術の活用を含む） 第 7 回：模擬授業に関する注意（情報通信技術の活用を含む） 第 8 回：模擬授業の実施と相互評価（情報Ⅰ） 第 9 回：模擬授業の振り返り（情報Ⅰ） 第 10 回：模擬授業の改善（情報Ⅰ）（情報通信技術の活用を含む） 第 11 回：模擬授業の実施と相互評価（情報Ⅱ） 第 12 回：模擬授業の振り返り（情報Ⅱ）			

第13回：模擬授業の改善（情報Ⅱ）（情報通信技術の活用を含む）

第14回：学習評価

第15回：まとめ

テキスト

文科省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 情報編」

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

模擬授業（60％）および提出物（40％）によって総合評価する。

授業科目名： 情報科教育特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：森山 潤 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 高等学校共通教科「情報」の実践に向けた基礎的な指導力を習得するために、学習内容を理解し、題材設定、教材研究の視点を身につける。			
授業の概要 高等学校共通教科「情報」の目標、学習内容、カリキュラム構成の考え方などを講義すると共に、具体的な教材研究について演習を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、社会の変化に対応した新しい情報教育の考え方 第2回：高等学校共通教科「情報」の目標、科目構成 第3回：科目「情報Ⅰ」の学習内容、科目「情報Ⅱ」の学習内容 第4回：[演習] 科目「情報Ⅰ」、「情報Ⅱ」の研修資料調べ 第5回：情報社会の問題解決に関する教材研究 第6回：情報デザインに関する教材研究（1）～コミュニケーションと情報デザインの考え方～ 第7回：情報デザインに関する教材研究（2）～教材例：Webページの情報デザイン～ 第8回：プログラミングに関する教材研究（1）～体系的なプログラミング教育の考え方～ 第9回：プログラミングに関する教材研究（2）～教材例：Microbit×Pythonなど～ 第10回：統計・データサイエンスに関する教材研究（1）～データの活用～ 第11回：統計・データサイエンスに関する教材研究（2）～データの分析～ 第12回：科目「情報Ⅰ」、科目「情報Ⅱ」の特性に応じたICTの活用とデジタル学習環境 第13回：[演習] マイクロティーチング準備 第14回：[演習] マイクロティーチングの実施と授業改善の視点～前半チーム～ 第15回：[演習] マイクロティーチングの実施と授業改善の視点～後半チーム～、全体のまとめ			
テキスト 適宜、資料を配布する。			
参考書・参考資料等 文部科学省 高等学校情報科 研修資料			
学生に対する評価 演習課題及びマイクロティーチング60%、授業における活動状況及びポートフォリオ40%			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：森山 潤
情報科教育授業論	選択科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
高等学校共通教科「情報」の実践に向けて、授業デザイン、学習評価の視点を身につけ、学習指導案として具体化できる力を習得する。			
授業の概要			
高等学校共通教科「情報」の授業デザイン、指導計画の立案方法、学習評価の考え方などを講義すると共に、マイクロティーチングについて演習を行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、高等学校共通教科「情報」の目標、内容の確認			
第2回：共通教科情報科の授業デザイン			
第3回：共通教科情報科の学習評価			
第4回：[演習] 科目「情報Ⅰ」、「情報Ⅱ」の実践事例調べ			
第5回：[演習] 実践事例プレゼンテーション（「情報Ⅰ」）			
第6回：[演習] 実践事例プレゼンテーション（「情報Ⅱ」）			
第7回：共通教科情報科における題材設定			
第8回：共通教科情報科における単元の指導計画の立て方			
第9回：共通教科情報科における学習指導案			
第10回：[演習] 学習指導案作成1(目標、単元構成、教材観)			
第11回：[演習] 学習指導案作成2(生徒観、指導観、展開計画、評価)			
第12回：[演習] マイクロティーチング準備			
第13回：[演習] マイクロティーチング（1）～前半チーム～			
第14回：[演習] マイクロティーチング（2）～後半チーム～			
第15回：[演習] マイクロティーチングの振り返り、全体のまとめ			
テキスト			
適宜、資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
文部科学省 高等学校情報科 実践事例集			
学生に対する評価			
演習課題及びマイクロティーチン60%、授業における活動状況及びポートフォリオ40%			

授業科目名： ESD概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：向 平和 竹下 浩子、森 貴子
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ			
【到達目標】			
1. 身近な環境問題や人権問題等に興味・関心をもち、解決に向けた取り組みを考えることができる			
2. ESDを目的とした行動を実行できる。			
3. 学校教育において実践可能なESDプログラムを提案できる。			
【テーマ】			
身近な環境問題や環境保全について例示しながら、学校教育におけるESDの理論と実態について理解する。そして、ESDの視点と教材開発の方法を習得する。			
授業の概要			
持続可能な開発のための教育（ESD）の目的・目標について説明し、その視点に立って身近な環境や人権問題、食育などについて概観する。また、学校教育でのESD教材を体験し、その教材の理論について理解し、学習プログラム開発について検討する。			
授業計画			
第1回：イントロダクション（担当：向平和）			
第2回：環境教育の視点でみたESD（担当：向平和）			
第3回：エネルギー問題から見たESD（担当：向平和）			
第4回：放射線教育について（担当：向平和）			
第5回：水に関する環境教育（担当：向平和）			
第6回：歴史から見た社会の多様性①：「ノルマン征服」とイングランド（担当：森貴子）			
第7回：歴史から見た社会の多様性②：スコットランドとイングランド（担当：森貴子）			
第8回：歴史から見た社会の多様性③：「記憶」とネイション（担当：森貴子）			
第9回：歴史資料の解釈と方法：歴史教科書におけるフランス革命（担当：森貴子）			
第10回：食と環境（担当：竹下浩子）			
第11回：食育について（担当：竹下浩子）			
第12回：学校給食と食育（担当：竹下浩子）			
第13回：国内の学校教育における ESD（担当：竹下浩子）			
第14回：海外の学校教育における ESD（担当：竹下浩子）			

第15回：ESD教材・学習プログラムの開発（担当：竹下浩子）

テキスト

「わかる！ESDテキストブック2<実践編> 希望への学びあいーなにを、どう、はじめるかー」、ESD-J、みくに出版

参考書・参考資料等

「環境教育指導資料幼稚園・小学校編」、国立教育政策研究所教育課程研究センター、東洋館出版社

「ESD環境教育モデルプログラムガイドブック①～③」、環境省

「わかる！ESDテキストブック<基本編>」、ESD-J、みくに出版（絶版）

http://www.esd-j.org/wp/wp-content/uploads/2006/12/ESD_textbook_kihon.pdfからダウンロード可

学生に対する評価

各テーマの授業中に行う試験、レポート、プレゼンテーション、出席後の取組状況を総合して評価する

。

授業科目名： 海外教育実践体験実習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 立松 大祐
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 海外での異文化交流や教育体験をすることによって、多様性を理解し、外国につながる子どものみならず、その保護者とも円滑なコミュニケーションをおこなう能力を備えた教員に求められる以下の資質・能力を獲得する。 1. 渡航先の文化・制度を理解し、円滑なコミュニケーションに必要な知識を身に付ける。 2. 渡航先の子どもの理解できる方法で、授業やプレゼンテーション、遊び活動等を実践するために必要な技能・能力を獲得する。 3. 文化・言語・背景の違いが不平等や不公正、差別等につながらないように豊かに想像力を働かせ、寛容な理解力をもって適切な配慮をおこなう。			
授業の概要 現地での文化交流や授業準備・実践を通して、渡航先と日本の文化・制度に対する理解を深め、授業運営能力・異文化間コミュニケーション能力等を総合的に向上させる。どの渡航先においても、事前準備を国内でおこなった後、学習指導／保育指導／活動を、渡航先の教育機関において実践し、その実践について協働省察をおこない、次の実践に生かすという一連の活動を想定している。渡航先での活動内容や訪問先は、可能な限り受講生の取得希望免許及び取得免許の学校種（幼・小・中・高・特支）に応じて決定する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：プログラムの概要 第2回：渡航先の国・地域・文化に関する理解 第3回：渡航先での活動プラン作成 第4回：学習指導案・保育指導案・活動案の作成 第5回：指導・活動の実演指導：作成した指導・活動案を用いた実演とその省察 第6回：渡航直前の確認と危機管理のための注意喚起 第7回：渡航先での学習指導・保育指導・活動の実践と協働省察 第8回：帰国後の事後指導 以上の他に、時間外において成果報告会を実施する			
テキスト			

適宜，プリント資料等を配付する。

参考書・参考資料等

適宜，プリント資料等を配付する。

学生に対する評価

事前・事後指導，海外実習，成果報告，レポート等から総合的に評価する。

授業科目名： 教育実践力開発論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：白松 賢、 城戸 茂、露口 健司 担当形態：オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
【実践的指導力の基礎レベル習得と成長課題の探究】			
多様で複雑な教育課題に対応できる「実践的指導力」を構成する資質能力のうち、学級経営力・生徒指導力・省察力の基礎を習得することができる。			
学級経営力・生徒指導力・省察力にかんする個人の成長課題を探究し、学び続ける教師としての基礎を確立する。			
授業の概要			
本科目は、愛媛大学教育学部カリキュラムポリシー、愛媛県教員のキャリアステージにおける指標（採用段階）、そして、愛媛大学教職大学院のアドミッションポリシーに示されている「実践的指導力」の基礎レベルの知識・技能の習得をねらいとしている。2回生後期教職科目「特別活動論」や、3回生前期教職科目「生徒指導・進路指導論」に向けて課題意識を喚起するような内容とする。			
「実践的指導力」を構成する資質能力のうち、学級経営力・生徒指導力・省察力（キャリア省察力）の3点に焦点をあて、これらの分野において研究と実践の蓄積がある3名の教員が各分野4回のオムニバス形式で授業を進める。また、第14回目に、学びを通して得た個々の職能成長課題をまとめて報告する機会も用意する。1回生前期「教職基礎論」とも関連づけ、教師として必要とされる「実践的指導力」を高めるために、今後、何をどのように学んでいくべきかを、学部段階修了後のステージも含めて、構想する機会とする。			
「実践的指導力」の習得に踏み込んだ科目であるため、授業は、講義・演習・協議・発表等の多様な方法を必要に応じて取り入れる。			
授業計画			
第1回：ガイダンス：授業の目的・計画・評価 (担当：白松賢・城戸茂・露口健司)			
第2回：学級経営力の実践研究（1）：学級経営の3領域 (担当：白松賢)			
第3回：学級経営力の実践研究（2）：20世紀型学級経営と21世紀型学級経営 (担当：白松賢)			

第4回：学級経営力の実践研究（3）：教師のストーリーテリングとファシリテーション （担当：白松賢） 第5回：学級経営力の実践研究（4）：保護者対応の事例研究 ―いじめを対象に― （担当：白松賢） 第6回：生徒指導力の実践研究（1）：SNS時代の生徒指導課題 （担当：城戸茂） 第7回：生徒指導力の実践研究（2）：不登校・校内暴力・中途退学の問題にどう向き合うか （担当：城戸茂） 第8回：生徒指導力の実践研究（3）：特別活動における道徳性育成 （担当：城戸茂） 第9回：生徒指導力の実践研究（4）：子どもを取り巻くつながりと学力向上 （担当：城戸茂） 第10回：省察力の実践研究（1）：教師の学び方・働き方・生き方改革 （担当：露口健司） 第11回：省察力の実践研究（2）：教員育成指標から読み取る教師としての未来 （担当：露口健司） 第12回：省察力の実践研究（3）：教師の幸福感とストレス （担当：露口健司） 第13回：省察力の実践研究（4）：人生100年時代の教職キャリア （担当：露口健司） 第14回：グループ課題 ポスター発表―自己の職能成長課題について― （担当：白松賢・城戸茂・露口健司） 第15回：まとめと総括 （担当：白松賢・城戸茂・露口健司） レポート試験
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 『学級経営の教科書』（白松賢著、東洋館出版） 『平成29年改訂 中学校教育課程実践講座 特別活動』（城戸茂 他著、ぎょうせい） 『学力向上と信頼構築』（露口健司編著、ぎょうせい） 『新時代の教職概論―新時代の学校の役割を知る 教師の仕事を知る―』（八尾坂修編著、ジダイ社）
学生に対する評価 最終論述試験（55%）、3回のブロック毎のレポート（45%）

授業科目名： 情報活用実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大西義浩、河村泰之
			担当形態： 複数
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) 学校現場での様々なシチュエーションを想定し、情報活用の実践力を高める。その際、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力が必要となる。 (目標) ・情報を収集・判断・表現・処理・創造するスキルを身につける。 ・情報を発信・伝達するスキルを身につける。			
授業の概要 情報教育で学ぶ情報活用の実践力についての理解を深め、子どもたちにその実践力を身につけさせるために必要な知識と技能を養う。特に、プログラミングに関しては演習を通してプログラミング的思考を体験する。最後に、情報モラル・情報セキュリティについて学び、その重要性・危険性を理解するために技術的な概念を確認する。			
授業計画 第1回：情報活用の実践力 第2回：情報と情報技術の特性と理解 第3回：情報技術の関する知識 第4回：情報技術に関する技能 第5回：情報の収集、整理、分析、表現、発信に関する理解 第6回：必要な情報を表現する力 第7回：新たな意味や価値を創造する力 第8回：情報活用の計画や評価・改善 第9回：プログラミング的思考 第10回：プログラミング演習：プログラミング環境 第11回：プログラミング演習：順次・反復・分岐処理 第12回：プログラミング演習：配列			

第13回：情報モラル

第14回：情報セキュリティ

第15回：情報に関する責任

試験

テキスト

適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

課題(80%)、試験(20%)

授業科目名： 実践省察研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 安部 利之
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ 【到達目標】 1. 教育実習での保育・授業と、その後の研究協議を観察することで、指導案の作成、教材・教具・環境構成を含めた工夫を知り、保育・授業を行うために必要とされる知識・技能を身につけようとする態度を養う。 2. 学年の異なる児童、あるいは校種の異なる学校の幼児・児童・生徒の学びの違いを知り、成長・発達を見通した保育・授業のあり方について考えることができる。 3. 教育実習までに習得することが必要な自己の課題について明確にし、述べることができる。 【テーマ】 上級学年の学生が行っている教育実習での研究保育・研究授業を観察することを通して、次年度の教育実習にむけた意識の高揚と今後の取り組みに対する課題を明確にする。			
授業の概要 次年度に実習を行う附属学校で、上級学年の学生が行っている教育実習での研究保育・研究授業の観察を行い、また異なる学年あるいは隣接する学校種の附属学校で行われている研究保育・研究授業も合わせて観察し、それぞれの実習後の協議会に参加する。さらに、この体験を大学に持ち帰って省察を行う。これらの経験を通して、教育実習を将来の自己の課題としてとらえ、次年度の教育実習に向けた意識の高揚を図る。また、学年あるいは学校種の異なる幼児・児童・生徒の学びの違いを知り、成長・発達を見通した保育・授業のあり方について考える。隣接校種の学校での保育・授業観察については、文部科学省が繰り返し強調している、異校種（幼小中高大）間で連携すること、複数校種免許状を取得させること、特に隣接校種の教育内容についての理解することの必要性に対応するものでもある。			
授業計画 「実践省察研究」は、<u>合計15時間</u>の内容から構成され、その内訳は、(1) 保育・授業観察を行う前の事前指導（2.5時間）、(2) 保育・授業参観およびそれに関する研究協議への参加（プレ教育実習）（2時間×2回＝4時間）、(3) 観察した保育・授業ごとの振り返り（省察授業）（3時間×2回＝6時間）、(4) 全体での事後指導（2.5時間）である。それぞれの内容は以下の通りである。 (1) 保育・授業観察を行う前の事前指導（2.5時間）：保育・授業観察の観点や方法、記録ノートのつけ方、附属校園での服装や振る舞いなどについて事前指導を行う。			

- (2) プレ教育実習（2時間×2回）：教育実習中に行われる研究保育・研究授業を観察し、それぞれについての研究協議会へも参加する（参観のみ）。

観察する研究保育・研究授業は、小学校組別研究授業、中学校教科別研究授業、幼稚園研究保育の中から2つを選択する（1時間×2回）。選択する保育・授業は、取得免許に対応した校種で行われる学年の異なる授業計2回（小学校のみ）、あるいは取得免許に対応した校種で行われる保育・授業1回＋隣接校種で行われる保育・授業1回とする。コースごとの観察する研究保育・研究授業は以下ようになる。

コース	基礎免許	観察する研究保育・研究授業
初等教育コース 幼年教育サブコース	幼稚園 小学校	幼稚園研究保育及び小学校組別研究授業から1つ
初等教育コース 小学校サブコース 特別支援教育コース (小学校基礎免)	小学校	以下、(i) (ii) (iii) のいずれか。 (i) 小学校組別研究授業から2つ＜基本形＞ (ii) 小学校組別研究授業から1つ及び幼稚園研究保育 (iii) 小学校組別研究授業から1つ及び中学校教科別研究授業
中等教育コース 特別支援教育コース (中学校基礎免)	中学校	中学校教科別研究授業及び小学校組別研究授業から1つ

また、それぞれの研究保育・研究授業について行われる協議会に参加し、そこで行われる、教育実習生、附属校園教員、大学教員による協議を参観し、記録を取る（1時間×2回）。

- (3) 大学での省察授業（3時間×2回）：(2) で参観した保育・授業および協議会について、それぞれ大学において省察を行う（研究保育・研究授業別省察授業（各3時間））。省察授業においては、参観中にとった記録ノート、授業のビデオ映像、指導教員による解説などに基づき、多様な観点から保育・授業について省察し、他の受講生の気づき及び自身の教育実習への学びを共有する。省察授業日程については、以下のスケジュールで行う。

1日目 午前：小学校の組別研究授業の省察①

午後：小学校の組別研究授業の省察②

2日目 午前：中学校の教科別研究授業・幼稚園の研究保育の省察

- (4) 大学での全体事後指導（2.5時間）：(2) と (3) を踏まえて、全体での総括授業を実施する。グループを作り、参観した保育・授業、協議会および省察授業（受講生ごとに異なる）を通した学びについて意見交換を行い、グループ毎に全体発表を行う。また、教育実習までに習得することが必要と感じた自己の課題についてまとめる。

テキスト

『平成29年改訂幼稚園教育要領』文部科学省

『特別支援学校幼稚部教育要領（平成29年告示）』文部科学省

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説』文部科学省

『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年告示）』文部科学省

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』文部科学省

『特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年告示）』文部科学省

参考書・参考資料等

各学校園で使用している教科書、指導書、研究授業指導案・保育案

学生に対する評価

保育・授業別のレポート（研究保育・研究授業の振り返りや今後の課題等、保育・授業内容に関連したレポートを課す）と研究保育・研究授業の観察記録で評価する。研究保育・研究授業や研究協議会での受講態度や省察授業のレポート内容などを含めて、実習委員会で最終評価をする。

授業科目名： 教職体験実習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 安部 利之
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 【到達目標】 1) 教員が取り組むさまざまな職務内容について、例を挙げながら説明できる。 2) 地域や保護者と学校との関わりについて、具体例を交えて述べることができる。 3) 教員に必要な資質能力について、実体験を通して知り、具体的に述べることができる。 【テーマ】 日々の授業を通して児童・生徒と向き合うことが教員にとって重要な職務であるが、それ以外にも学校の教育目的を実現するために教員同士が連携しながら教育環境を整えることや学習目標を立てること、あるいはまた地域や保護者との連携、児童・生徒の登下校の見守りなど、さまざまな役割がある。こうした教員の職務内容や地域と学校の子どもたちに対する想いを、出身の小学校もしくは中学校での実習を通して理解する。			
授業の概要 大学2年次に、主に出身小学校または中学校において、授業及び学級経営の観察実習を行う。 30時間の実習で1単位を認定する。			
授業計画 事前指導：1年次の11月および2年次の6月頃に行う。1年次には、実習の目的や実施方法、スケジュール及び実習への心構えについて学び、履修希望者は各自で実習校に連絡し、実習の受入れについて確認する。2年次6月の事前指導では、実習校との打ち合わせや、観察実習を行うにあたっての注意点について学ぶ。 観察実習：原則として2年次9月の上旬～中旬に1週間(30時間)行う。実習では、自身が学んだ学校において、主に観察実習によって、児童・生徒たちの様子や現場の先生方の授業のマネジメント及び業務について直接体験し、教職に向けての意欲の向上と体験的学びを図る。また学んだ内容については、実習ノートに記録し、実習担当教員と振り返りを行う。 事後指導：2年次11月頃実施。観察実習で得られた学びを実習ノートやその他の資料等をもとに、大学の学生生活担当教員と協議及び振り返りを行い、学びをより堅実なものにしていく。			
テキスト 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説』文部科学省			

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』 文部科学省
参考書・参考資料等
各学校で使用している教科書、指導書
学生に対する評価
評価シートに基づく実習校からの評価（5割）
事後指導を通して実習委員会の評価（5割）

授業科目名： 教職教養課題特講	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 大西 義浩、富田 英司
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
この授業は現代的教育課題に対応できる教員の養成を目的としたものであり、以下の3つ側面を強調している。 （1）動機づけの側面：受講者自身がなぜ教職を目指すのか自己理解を深め、将来の教師として潜在的に培われてきた現在の資質について自己評価し、さらに卒業時に獲得しておきたい資質を明らかにして今後受講生が自律的に学習や経験の場を求める際の指針を設定する。 （2）知識の側面：現行の教育政策等に関する基礎的知識を始めとして、現在の教育現場で重要な位置を占めるトピックについて理解を深める。 （3）臨床的理解の側面：ここでの臨床とは実践の現場に即したあり方を指す用語である。愛媛県内の地域や学校教育の実践について、実際の現場に赴き、フィールドワークを通して、地域と学校の協働のあり方について現実的な将来のあり方を構想する。			
授業の概要			
この授業は、これからの教職に必要な自己理解、知識、および地域と学校の協働に関する臨床的理解を促し、現代的な教育課題に深い造詣を持つことができるよう設計されている。授業展開は3部構成であり、それぞれ座学に加えて参加型の活動が設定されている。参加型の活動として、「教職への動機づけと自己理解」ブロックでは、キャリア・ポートフォリオを制作する。「教職教養トピック研究」ではグループ毎にトピック研究に取り組みプレゼンテーションをおこなう。最後の「愛媛の地域と学校教育実践に関する研究」では愛媛県内からゲストティーチャーを招き、情報提供を頂いた上でグループワークをおこなう。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（授業概要）（担当：大西義浩）			
第2回：教職への動機づけと自己理解①：教職の選択と動機づけに関する基礎理解（担当：富田英司）			
第3回：教職への動機づけと自己理解②：キャリア・ポートフォリオの導入（担当：富田英司）			
第4回：教職への動機づけと自己理解③：キャリア・ポートフォリオの制作（担当：富田英司）			
第5回：教職教養トピック研究①：21世紀社会と学校教育（担当：富田英司）			
第6回：教職教養トピック研究②：教師のワークライフバランスにする最新動向（担当：富田英司）			
第7回：教職教養トピック研究③：プログラミング教育、外国語、国際理解、ESD等（担当：大西義浩）			
第8回：教職教養トピック研究④：地域と学校の協働に関する最新の動向（担当：大西義浩）			
第9回 愛媛の地域と学校教育実践に関する研究①：非常時における学校（担当：大西義浩）			
第10回 愛媛の地域と学校教育実践に関する研究②：地域資源を活かした小学校教育（担当：大西義浩）			

- 第11回 愛媛の地域と学校教育実践に関する研究③：東予，中予，南予との違いと子どもたち(担当：大西義浩)
- 第12回 愛媛の地域と学校教育実践に関する研究④：島しょ部の学校 (担当：大西義浩)
- 第13回 愛媛の地域と学校教育実践に関する研究⑤：地域と防災対策 (担当：大西義浩)
- 第14回：キャリア・ポートフォリオを使った振り返り：(担当：富田英司)
- 第15回：まとめ (担当：大西義浩)

テキスト

テキストは指定しない。資料を授業で配布する。

参考書・参考資料等

鈴木敏恵（著）『キャリアストーリーをポートフォリオで実現する』日本看護協会出版会、2014年

学生に対する評価

一般的な提出物(40%)、ポートフォリオ評価 (40%)、グループにおける取り組み状況 (20%)

授業科目名： 一貫教育・連携教育概 論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青井 倫子、藤原 一弘 梅田 崇広、 担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ			
幼児教育段階から義務教育終了時までを視野に入れ、一貫した資質・能力観のもとで教育を行 う必要性を理解し、異なる学校種の教員間で適切な連携を取るための具体的な方策を考えること ができる。			
(1) 一貫教育・連携教育を推進することの意義を説明できる。			
(2) 自らが取得しようとする免許状の学校種とは異なる学校種での子どもの学びと成長を知 り、異校種連携を念頭に置いたカリキュラムを考えることができる。			
(3) 幼小連携・接続および小中一貫・連携の具体的事例を知り、今後の学修課題を明確にす ることができる。			
授業の概要			
幼・小や小・中などの学校段階の移行時に、児童生徒が不適応に陥ることなく、新しい学校環 境において望ましい適応をしていくための、学校種間の連携や一貫した教育体制の在り方を知 る。また、異校種間での接続事例をもとに、適切な連携教育・一貫教育の在り方について理解 を深める。			
授業計画			
第1回：授業のオリエンテーション：教員養成における一貫教育・連携教育の位置づけ（担当 ：青井倫子）			
第2回：一貫教育・連携教育推進の背景（担当：梅田崇広）			
第3回：子どもの発達に応じた学校種間の接続（1）幼児教育段階から小学校へ（担当：青井 倫子）			
第4回：子どもの発達に応じた学校種間の接続（2）小学校から中学校へ（担当：藤原一弘）			
第5回：子どもの発達に応じた学校種間の接続（3）中学校から高等学校へ（担当：梅田崇広 ）			
第6回：学校移行における環境適応と学校間連携（担当：藤原一弘）			
第7回：特別なニーズをもつ子どもたちにおける学校間連携の意味（担当：青井倫子）			
第8回：異校種間での接続事例（1）言語（担当：藤原一弘）			
第9回：異校種間での接続事例（2）社会認識（担当：梅田崇広）			

第10回：異校種間での接続事例（3）自然認識（担当：青井倫子） 第11回：異校種間での接続事例（4）ものづくり（担当：青井倫子） 第12回：異校種間での接続事例（5）表現（担当：藤原一弘） 第13回：対人関係能力の育成と一貫教育・連携教育（担当：梅田崇広） 第14回：主体性の育成と一貫教育・連携教育（担当：梅田崇広） 第15回：まとめと全体的討論（担当：青井倫子、藤原一弘、梅田崇広）
テキスト 各回の担当教員が資料プリント等を配布する。
参考書・参考資料等 平成29年告示『幼稚園教育要領』文部科学省 平成29年告示『小学校学習指導要領解説』文部科学省 平成29年告示『中学校学習指導要領解説』文部科学省 平成30年度告示『高等学校学習指導要領解説』文部科学省
学生に対する評価 (1) 授業における各回のトピックに関する提出物（小レポートや討論ワークシート等）：50% (2) テーマ毎に実施する試験またはまとめのレポート：50%

授業科目名： 部活動指導実践論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 日野 克博、市川 克明
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
授業の到達目標は以下の3点である。			
(1) 学校教育における部活動の意義やねらいを具体的に説明できる			
(2) 部活動指導者の役割と充実した指導を行うための指導法を説明できる			
(3) 部活動における実践上の課題とその対処の仕方を説明できる			
授業の概要			
学習指導要領に示された部活動の意義やねらい及び指導上の留意点について理解を深める。			
授業前半は学校教育における部活動等の目的や課題、指導者に求められる資質・能力について、			
授業後半は教育現場での部活動等を観察・支援し、実際の活動からみえてきた課題や問題点を			
考察し、その対処法について考える。総括では、授業全体をふりかえり、部活動における現代			
的教育課題とその解決法を発表する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス：学校教育における部活動の位置づけ（担当：日野克博）			
第2回：部活動の意義やねらい（担当：日野克博）			
第3回：部活動における今日的課題（体罰根絶、許されない指導）（担当：市川克明）			
第4回：部活動マネジメント（運営の在り方）（担当：日野克博）			
第5回：部活動指導者に求められる資質・能力（安全管理・事故防止）（担当：日野克博）			
第6回：部活動指導者に求められる資質・能力（指導スキル）（担当：市川克明）			
第7回：部活動指導者に求められる資質・能力（保護者対応）（担当：日野克博）			
第8回：部活動観察（中学校：部活マネジメント）（担当：日野克博）			
第9回：部活動観察（中学校：部活指導）（担当：市川克明）			
第10回：部活動指導における実践上の問題と対処法（中学校）（担当：市川克明、日野克博）			
第11回：部活動観察（高等学校：部活マネジメント）（担当：日野克博）			
第12回：部活動観察（高等学校：部活指導）（担当：市川克明）			
第13回：部活動指導における実践上の問題と対処法（高等学校）（担当：市川克明、日野克博）			
第14回：部活動の自己点検・評価の方法（担当：日野克博）			
第15回：総括・発表（担当：日野克博、市川克明）			

テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年告示）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』（平成29年告示）

文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成30年告示）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編』（平成30年告示）

参考書・参考資料等

必要に応じて紹介する。

愛媛県教育委員会 運動部活動運営ガイド-改訂版-（平成27年）

学生に対する評価

目標 1 について、レポート（20%） 目標 2 について、毎時間のミニペーパー（60%） 目標 3 について、総括でのプレゼン（20%）

授業科目名： インターン実習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 安部 利之
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 【到達目標】 1) 大学で習得した理論や教養を教育実践に活かすことができる。 2) 幼児・児童・生徒の生活指導力、保育内容・各教科等の指導力を高めることができる。 3) 学級経営、教師としての服務等について深く理解することができる。 4) 教職への使命感、教育者としての人格を高めることができる。 【テーマ】 インターン実習は、これまでの大学での授業や教育実習、教育実践体験活動等を通して身につけた知識・技能・態度を基礎に、長期分散的又は教職への就職前などの短期集中的に教育現場に関わることで、幼児・児童・生徒の成長及び教育活動全般について、より広く、具体的実践的に学ぶ。			
授業の概要 3年次以降に教育実習を行った附属校園（原則として実習を行った学級もしくは指導教員のもと）で、長期分散的又は教職への就職前などに短期集中的に教育実習を行う。計30時間の実習で1単位を認定する。			
授業スケジュール 前半 学級担任教員と幼児・児童・生徒との関係性及び幼児・児童・生徒間の関係性を観察し、学級集団や個々の幼児・児童・生徒への効果的な働きかけについて考察する。 ・幼稚園の場合 1. 幼児の生活の流れに沿って保育のポイント指導 2. 登園時の幼児の受け入れから降園までの園生活全般 3. 就職前の短期集中型の実習とし、幼稚園の教育活動全般について実践的に学ぶ ・小学校の場合（担当：青井倫子又は向平和） 1. 学級に配属し、特別活動や道徳、総合的な学習の時間を中心に児童の関係性を観察する 2. 長期分散型の実習とし、特別活動や道徳、総合的な学習の時間を中心に児童の成長を見取る ・中学校の場合 1. 学級に配属し、特別活動や道徳、総合的な学習の時間を中心に生徒の関係性を観察する 2. 長期分散型の実習とし、特別活動や道徳、総合的な学習の時間を中心に生徒の成長を見取る			

・特別支援学校の場合

1. 特別支援教育に関する課題に対応した指導実践
2. 登下校指導、日常生活の指導、学習指導、学級経営などの学校生活全般
3. 就職前の短期集中型の実習とし、特別支援学校の教育活動全般について実践的に学ぶ

後半

積極的に教育実践に関与しながら、学級運営の方法を中心に実践的に学ぶ。

指導教員と相談しながら保育・授業実践についても検討する。

テキスト

『平成29年改訂幼稚園教育要領』文部科学省

『特別支援学校幼稚部教育要領（平成29年告示）』文部科学省

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説』文部科学省

『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年告示）』文部科学省

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』文部科学省

『特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年告示）』文部科学省

参考書・参考資料等

各学校園で使用している教科書、指導書

学生に対する評価

実習中の様々な機会を通して得られた資料（保育・授業観察シート、指導案、実習記録簿など）をもとに評価する。

授業科目名： インクルーシブ教育実践論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉松 靖文、 荻田 知則、中野 広輔、 檜木 暢子 担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ インクルーシブ教育システムの推進に向け、教員として教育現場における現代的諸問題に対応するため、以下に挙げる3つの力を習得することを目的とする。 1. 教員自身の個に閉じた知識・経験ではなく、全国的な教育的取り組みを検索し情報収集する力（情報収集力） 2. 教員が一般業務としてではなく、特別支援教育の個別指導においてコンピュータ・デジタル教材を用いるためにICTを活用する力（ICT活用力） 3. 保健医療福祉領域と密に連携をとりながら、発達障害がある児童生徒が安心・安全に学校生活を送るために、健康問題に対応する力（健康問題対応力）			
授業の概要 インクルーシブ教育システムの推進に向け、教育実践の中では多くの課題が残されている。 ① 多くの児童生徒にわかりやすい授業を実践する上で、個々のニーズ（能力の偏り（ディスクレパンシー）や学び方等）に応じて、支援・指導法を変える必要があるが、一人の教員の経験（個に閉じた知識）では支援・指導法が十分な多様性を確保できず、一定数の児童生徒にはわかりづらい授業になっている。 ② 文部科学省は「障害者の権利に関する条約」に基づく「合理的配慮」の観点から、様々な障害の特性に応じた「合理的配慮」の例を示しており、発達障害のある児童生徒の場合、「個別指導のためのコンピュータ・デジタル教材・小部屋等の確保、クールダウンするための小部屋等の確保、口頭による指導だけでなく板書・メモ等による情報掲示」等が提供されるべきであるが、地方都市においてはほとんど知られておらず、「合理的配慮」を提供できていない学校も多い。 ③ 発達障害のある児童生徒は、てんかんやアレルギー等を合併することが多いが、一般の教職員はもちろん、特別支援教育コーディネーターも保健医療福祉領域の知識が不足している。不測の事態が生じた際には学校看護師や養護教諭が対応するにしても、予防的観点から日常の実践において適切な支援・指導が行われる必要がある。 このことから、本授業においては、演習や模擬授業等を通して、①情報収集力、②ICT活用力			

、③健康問題対応力を習得することを目的とする。

授業計画

第1回：ガイダンス、インクルーシブ教育における現代的諸問題（担当：吉松靖文）

第2回：通常の学校における合理的配慮、基礎的環境整備、個別の指導計画・教育支援計画の作成（担当：檜木暢子）

第3回：特別支援教育における外国語活動（模擬授業含む）（担当：荻田知則）

第4回：特別支援教育におけるキャリア教育（担当：檜木暢子）

第5回：特別支援学校のセンター的機能（模擬授業含む）（担当：吉松靖文）

第6回：発達障害の理解（担当：吉松靖文）

第7回：発達障害の支援（担当：吉松靖文）

第8回：合理的配慮としてのICT活用（担当：荻田知則）

第9回：学校における危機管理、公衆衛生（担当：檜木暢子）

第10回：学校保健と地域生活支援（担当：檜木暢子）

第11回：呼吸・消化・免疫に関する医学的基礎知識（担当：中野広輔）

第12回：アレルギー対策（演習含む）（担当：中野広輔）

第13回：医療的ケアに関わる基礎知識（担当：中野広輔）

第14回：医療的ケア演習・喀痰吸引（担当：中野広輔・荻田知則・檜木暢子）

第15回：医療的ケア演習・経管栄養（担当：中野広輔・荻田知則・檜木暢子）

テキスト

健康面の困難への対応、中野広輔・檜木暢子・滝川国芳編著、建帛社。

支援機器を用いた合理的配慮概論、金森克浩・荻田知則・大杉成喜編著、建帛社。

参考書・参考資料等

『幼稚園教育要領』文部科学省 平成29年3月

『小学校学習指導要領』文部科学省 平成29年3月

『中学校学習指導要領』文部科学省 平成29年3月

『高等学校学習指導要領』文部科学省 平成30年3月

『特別支援学校幼稚部教育要領』文部科学省 平成29年

『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』文部科学省 平成29年

『特別支援学校高等部学習指導要領』文部科学省 平成31年

学生に対する評価

最終成績は、総括レポートの成績7割、演習等のミニレポートの成績3割を目安として総合的に評価・判断する。

授業科目名： 道徳教育指導論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 太田 佳光
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ			
日本の道徳教育の特徴を歴史及び他国との比較から学習し、各々の教育方法・発達理論について特徴を理解したうえで、学習指導要領及びその解説に基づいた授業をデザインする。具体的な到達目標は以下の通りである。 (1) 人間にとっての道徳の必要性を理解し、道徳を教えることの基本的性格を説明できる。 (2) 日本の道徳教育の特徴を、その歴史及び他国との比較から説明できる。 (3) 道徳の教育方法や道徳性の発達に関する諸理論を学び、それぞれの特徴や問題点を指摘できる。 (4) 学習指導要領やその解説等から道徳教育の目的・内容・方法を読み取り、それらを道徳性の発達に関する諸理論に結びつけることができる。 (5) 上記の学習を通じて暫定的ながらも根拠をもって自分なりの授業をデザインし、指導案の作成や模擬授業を実施することができる。			
授業の概要			
道徳教育の概念や特徴について基礎的な理解を得るとともに、日本の道徳教育の歴史や他国との類似点・相違点を知ることで、多角的な視点から道徳教育の意義を考察する。また、道徳性の発達や道徳教育の方法をめぐる様々な理論を紹介し、各理論の特徴や問題点を検討する。そのうえで、学習指導要領の記述や生徒の発達段階を考慮したうえで、指導案の作成・模擬授業の実施を通して、自分なりの授業をデザインできるようになることを目指す。			
授業計画			
第1回：学習指導要領における道徳教育の位置づけ：「特別の教科 道徳」の特徴			
第2回：学教育活動全体を通じた道徳教育：全体計画と年間指導計画			
第3回：日本の道徳教育の歴史：戦前の「修身」から戦後の特設化まで			
第4回：世界の道徳教育：韓国、アメリカ、イギリスを中心に			
第5回：道徳教育の方法（1）：自我関与を中心とした授業の方法			
第6回：道徳教育の方法（2）：役割演技・体験活動を取り入れた授業の方法			
第7回：指導案の作成・模擬授業（1）：価値の自覚を伴う読物資料（「二通の手紙」）を用いた授業デザイン			

第8回：道徳教育の方法（3）：コールバーグの道徳性発達理論とモラル・ジレンマ授業
 第9回：道徳教育の方法（4）：話し合いや問題発見・解決過程を取り入れた授業の方法
 第10回：指導案の作成・模擬授業（2）：話し合いを促す読物資料（「正義って何？」）を用いた授業デザイン

第11回：道徳科の特性を踏まえた学習評価のあり方：励ます個人内評価の具体的な展開
 第12回：資料の様々な活用：「手品師」の資料分析を通じて道徳的価値の理解を深める
 第13回：道徳教育の模擬体験（1）：いのちをめぐる体験活動を生かした授業の具体像
 第14回：道徳教育の模擬体験（2）：参加型学習を取り入れた人権教育（いじめ問題への対応）
 第15回：愛媛県の資料を活用した道徳授業

テキスト

- ・文部科学省、2017、『中学校学習指導要領』
- ・文部科学省、2017、『中学校学習指導要領解説―特別の教科 道徳編』。
- ・丸山恭司、2014、『道徳教育指導法』協同出版。

参考書・参考資料等

- ・文部科学省、2014、『私たちの道徳（中学校）』。
- ・赤堀博行、2017、『「特別の教科 道徳」で大切なこと』東洋館出版社。
- ・荒木寿友、2013、『学校における対話とコミュニティの形成』三省堂。
- ・大阪府人権協会、2012、『やってみよう！人権・部落問題プログラム』解放出版社。・黒田恭史、2003、『豚のPちゃんと32人の小学生』ミネルヴァ書房。
- ・林泰成、2013、『モラルスキルトレーニングスタートブック』明治図書。
- ・松下良平、2011、『道徳教育はホントに道徳的か？』日本図書センター。

学生に対する評価

最終レポート（40%）、指導案の作成・模擬授業の実施（30%）、毎授業後の授業参画シートの提出（30%）を基に総合的に評価する。

授業科目名： 教職日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中曾 久雄
			担当形態：単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
授業の到達目標及びテーマ			
【到達目標】 憲法の基本概念を修得し、さらに、憲法の思考枠組を理解し、憲法に関わる具体的問題が考察できるようになること。			
【テーマ】 多様な価値観が混在する現代社会において、自由で公正な社会を実現するための指針となるのが日本国憲法である。憲法は単なる理想を書いた文章と思われがちであるが、実は我々の現実の生活に大きく関わるものである。本講義では、基礎的概念を取得し、現実における日本国憲法に関わる諸問題を検討できるようになることを目的とする。			
授業の概要			
本講義では、まず、基本概念を性格について着実に理解し、それが実際裁判例でどのように用いられているかを検討する。本講義では、特に、人権の領域を中心に講義を行う。			
授業計画			
第1回 憲法の基本的概念			
第2回 統治機構総論①・憲法の基礎概念			
第3回 統治機構総論②・憲法の保障			
第4回 統治機構各論①・憲法制定権力・主権			
第5回 統治機構各論②・国会・内閣・裁判所・地方自治			
第6回 人権と違憲審査総論			
第7回 人権の保障内容①・自由権・社会権・国務請求権			
第8回 人権の保障内容②・刑事手続の権利			
第9回 人権の具体的保障①・精神的自由の保障のあり方			
第10回 人権の具体的保障②・経済的自由の保障のあり方			
第11回 人権の具体的保障③・救済の手法			
第12回 包括的権利・平等権			
第13回 包括的権利・幸福追求権			
第14回 平和主義			

第 15 回 帝国憲法 第 16 回 試験とまとめ
テキスト 『ベーシックテキスト憲法 第3版』／君塚正臣：法律文化社、2017
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 最終試験（筆記試験）100%であるが、授業に対する貢献（有用なコメント）には加点を行う場合がある。

授業科目名： スポーツ		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 1 単位		担当教員名： 市河 勉、井門 恵理子、 林 恭輔、福田 隆	
						担当形態：クラス分け・単独	
科 目		免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・体育					
授業の到達目標及びテーマ							
【到達目標】							
1) 知識・思考							
・自己の健康や体力を保持・増進させるための目的や方法を説明できる							
2) 技能・表現							
・健康や体力を保持・増進させたり、スポーツに親しむための具体的な運動方法を実践できる							
3) 意欲・関心・態度							
・スポーツの楽しさを体感し、コミュニケーションをとりながら、主体的にスポーツに取り組むことができる。							
【テーマ】							
社会環境や生活様式の変化による運動機会の減少、体力の低下、生活習慣病や精神的ストレスの増加など、大学入学後の運動習慣・生活習慣の変化を踏まえ、初年次科目として、大学生生活において必要な健康や体力の保持・増進のための基礎的知識や身体的教養を理解する。また、スポーツ実践を通して生涯スポーツに発展する実践力を身につけるとともに、自己効力感やコミュニケーション能力を高め、学生生活を充実させることにつながるライフスキルを向上させる。							
授業の概要							
第 1 回目の授業でガイダンス（グループ分け）、第 2 回目の授業で体力測定をした後、前半は基礎的な体力づくりや動きづくりの期間として E-fit（愛媛大学版フィットネス・エクササイズ）を行い、後半は各種スポーツの特性にふれるための発展的な動きづくりの期間として授業を進めていく。第 1 4 回目の授業で体力測定を実施し、第 1 5 回目の授業では全体を通したまとめ（共通テストとふり返し）を行う。							
授業計画							
第 1 回：ガイダンス（授業の趣旨、注意事項、グループ分け）							
第 2 回：体力測定							
第 3 回～第 6 回：E-fit（基礎的な体力づくり、動きづくり）							
第 7～1 3 回：発展的な動きづくり							
第 1 4 回：体力測定							
第 1 5 回：まとめ（共通テストと振り返り）							

第3回～第6回のE-fit（愛媛大学版フィットネス・エクササイズ）では、4領域の運動（ストレッチング、筋トレ、レクリエーションゲーム、ボールを使った運動等）を実施する。

第3回：ウォーミングアップ&クーリングダウン

第4回：体づくり・レジスタンストレーニング・体力向上

第5回：心づくり・レクリエーション運動

第6回：感覚づくり・コーディネーション運動

第7～13回の発展的な動きづくりの例

バドミントン

第7回 バドミントン（発展的な動きづくり…ラケットとシャトルに慣れる）

第8回 バドミントン（発展的な動きづくり…発展的な動きづくり…
オーバーヘッドストローク、アンダーハンドストローク）

第9回 バドミントン（発展的な動きづくり…ハイクリヤー、ドロップ・スマッシュ）

第10回 バドミントン（発展的な動きづくり…ドライブ・ヘアピン・ショートサービス
・ミニゲーム）

第11回 バドミントン（発展的な動きづくり…チーム練習、シングルスゲーム）

第12回 バドミントン（発展的な動きづくり…チーム練習、ダブルスゲーム）

第13回 バドミントン（発展的な動きづくり…チーム対抗のダブルスゲーム）

ダンス

第7回 フィットネス（発展的な動きづくり ボールを使ったゲームやストレッチ）

第8回 フィットネス（発展的な動きづくり ストレッチボール）

第9回 フィットネス（発展的な動きづくり ストレッチ、コンディショニング）

第10回 エアロビクス（発展的な動きづくり 音楽を使ったリズムダンス、ステップ基礎）

第11回 エアロビクス（発展的な動きづくり 音楽を使ったリズムダンス、ステップ応用）

第12回 エアロビクス（発展的な動きづくり 音楽を使ったリズムダンス、基礎）

第13回 エアロビクス（発展的な動きづくり 音楽を使ったリズムダンス、応用）

テニス

第7回 テニス（発展的な動きづくり…ラケットとボールに慣れる）

第8回 テニス（発展的な動きづくり…フォアハンドストロークの方法）

第9回 テニス（発展的な動きづくり…バックハンドストロークの方法、緩やかなラリー）

第10回 テニス（発展的な動きづくり…ボレーの方法、緩やかなラリー）

第11回 テニス（発展的な動きづくり…チーム練習、簡易ゲーム）

第12回 テニス（発展的な動きづくり…サービスとレシーブの方法、技能に応じたゲーム）

第13回 テニス（発展的な動きづくり…チーム練習、技能に応じたゲーム）

ソフトバレーボール

第7回 ソフトバレーボールを行うための発展的な動きづくり（ボールに対する動き）

第8回 発展的な動きづくり（オーバハンド・アンダーハンド・シングルハンド）

第9回 スパイク（助走・踏み込み・空中姿勢・ミート・スイング）と各種練習法

第10回 サーブとサーブレシーブ、サーブレシーブのフォーメーション、ローリングの技術

第11回 トスアップとスパイク、レシーブと二段トス

第12回 ゲーム、オフェンスとディフェンスのフォーメーション

第13回 ゲーム、チームミーティング

テキスト

Health & Sports Handbook／愛媛大学、2022

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

到達目標の実現状況を評価する。

評価にあたっては、目標 1（知識）が 25 点、目標 2（技能）が 25 点、目標 3（態度）が 50 点の配分で行う。

各目標に対する評価の方法は以下のとおりである。

- ・ 目標 1...E-fit の授業内容及びハンドブックに関する知識評価、共通テスト
- ・ 目標 2...発展的動きづくり期間における技能評価
- ・ 目標3...授業中の学習行動に関する態度評価

授業科目名： スポーツと教育		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 石井 浩一、日野 克博、 上田 敏子
				担当形態： クラス分け・オムニバス
科 目		免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・体育		
授業の到達目標及びテーマ				
【到達目標】				
1. 運動やスポーツの指導場面で必要となる実践的な知識を説明できる。				
2. スポーツイベントの企画・運営や安全管理の具体的な方法を理解し、実践できる。				
3. スポーツを通して仲間と豊かに交流できる協動的態度を取ることができる。				
【テーマ】				
本授業は、教員免許状取得に必要な単位として認められている資格取得科目である。体育的行事や運動部活動などの指導場面で求められる健康や安全に関する知識や指導法について学習し、実践的な指導力を身につける。				
授業の概要				
第1回目の授業でガイダンス（本授業の主旨、グルーピング）、第2回目は全受講者でアイスブレイクを行う。第3回目以降は、受講者が3つのテーマユニット（1ユニットが4回）に分かれて受講していく（グループによってユニットの順番は異なる）。第15回目は教室でまとめの授業を行う。				
授業計画				
第1回：ガイダンス（授業の趣旨、注意事項、グループ分け）				
第2回：アイスブレイキング				
第3回：ユニット1（コミュニケーションワーク1「えっ?!」）（担当：上田 敏子）				
第4回：ユニット1（コミュニケーションワーク2「そうかつ!」）（担当：上田 敏子）				
第5回：ユニット1（コミュニケーションワーク3「なるほどっ!」）（担当：上田 敏子）				
第6回：ユニット1（コミュニケーションワーク4「できたっ!!」）（担当：上田 敏子）				
第7回：ユニット2 スポーツ指導の基礎・基本1:ストレッチング、レジスタンス ・トレーニングの方法（担当：石井 浩一）				
第8回：ユニット2 スポーツ指導の基礎・基本2：けがの予防、運動部活動の練習の立て方（担当：石井 浩一）				
第9回：ユニット2 スポーツ指導の基礎・基本3：準備運動、主運動、整理運動の考え方（担当：石井 浩一）				
第10回：ユニット2 スポーツ指導の基礎・基本4：望ましくない指導とは（担当：石井 浩一）				

第 11 回：ユニット 3（スポーツイベントの企画）	（担当：日野 克博）
第 12 回：ユニット 3（スポーツイベントの安全管理）	（担当：日野 克博）
第 13 回：ユニット 3（スポーツイベントの運営）	（担当：日野 克博）
第 14 回：ユニット 3（スポーツイベントの開催）	（担当：日野 克博）
第 15 回：まとめ	（担当：石井 浩一、日野 克博、上田 敏子）
テキスト	
ユニット毎に、資料等を配付する。	
参考書・参考資料等	
特になし	
学生に対する評価	
到達目標の実現状況に即して、各ユニット並びにまとめの授業別に評価し、それらを総合する。配点は各ユニットが 30 点、まとめが 10 点。	

授業科目名： 英語Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 折本 素 イアン・ダウン レスリー・ブラック ジェーン・ワタナベ、 担当形態：クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業の到達目標及びテーマ			
【到達目標】			
1. 英語で、5分間またはそれ以上、身近なトピックや関心事について、自分の考えや意見を詳しく述べることができる。			
2. 既存の英語知識を活用させ、他者と上手くコミュニケーションを図るためには何が必要か気づくことができる。			
3. 様々なコミュニケーションの構造（例：挨拶、スモール・トーク、会話を終える、質問する、意見を述べる）を理解し、使うことができる。			
4. コミュニケーション・ストラテジー（例：間を埋める、相槌、聞き返す、言い換える）を適切に使用し、相互理解に努めるとともに、少なくとも5分間は会話の流れを保つことができる。			
5. 日常会話に関連する様々な語彙、熟語、表現を使うことができる。			
6. 互いに協力して、安心して英語を使える環境を作ることができる。（例：間違いを恐れない、親しみを持って話す、積極的に参加する）			
【テーマ】			
身近なトピックや一般的な関心事について、明確に自信を持って、英語でクラスメートとお互いに意見を述べあうことができる能力を身につけることを目的とする。また、自身およびクラスメートのコミュニケーション能力向上のために、積極的かつ協力的に授業に取り組むことを目指す。			
授業の概要			
スピーキング能力およびスキルを身につけることに焦点を当てるが、4技能を結びつけて総合的に英語力を向上させる授業を行う。			
授業計画			
第1回：ガイダンス（授業の目標、進め方、予習・復習の説明）・教室英語など			
第2回目～14回目（受講者の理解度にあわせて進度を決める）			
第2回：挨拶とスモール・トーク			
第3回：情報を尋ねる表現と、頻度・期間を尋ねる表現			

第4回：相槌，順序交代，会話の基本構造

第5回：非言語コミュニケーションと情報を付加する表現

第6回：賛成・反対の表現と意見を述べる

第7回：説明・言い換え，ジェスチャー

第8回：復習1 第2回から第7回

第9回：気持ちを表現する，過去の出来事について話す

第10回：未来の出来事について話す

第11回：理由を述べて賛成・反対する

第12回：ディスカッション練習1

第13回：ディスカッション練習2

第14回：復習2 第9回から第13回

第15回：期末テストとまとめ

テキスト

Communicating Collaboratively AY2022（愛媛大学生協）

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

授業中の活動：30%

小テスト・課題など：40%

期末テスト：30%

授業科目名： 英語Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： マーク・スタフォード ジェーン・ワタナベ デジ・トム 担当形態：クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業の到達目標及びテーマ			
【到達目標】			
1. 英語と日本語の音声的な違い（発音、リズム、イントネーション）を理解することができる。			
2. 英語の指示、会話、ナレーション等を効果的に聞き取ることができる。			
3. 英語で話される内容（語句のアクセントや発音を含む）をそれぞれ聞くだけでなく、自分の持っている知識を活用して内容の大枠をつかみながら英語を聞くことができる。			
4. リスニング能力の向上に必要な語彙知識を増やす。			
【テーマ】			
英語を使って情報を入手し、積極的にコミュニケーションを図る能力と態度を身につけることを目的とする。特に、英語の音声的な特徴を理解して、特定の目的に応じた聞き取りができることを目指す。			
授業の概要			
リスニング能力およびスキルを身につけることに焦点を当てるが、4 技能を結びつけて総合的に英語力を向上させる授業を行う。			
授業計画			
第 1 回：ガイダンス(授業の目標、進め方、予習・復習などの説明)			
第 2 回：英語の音声システム			
第 3 回：日常生活に関する表現			
第 4 回：計画とスケジュールの決め方に関する表現			
第 5 回：天気予報と天気に関する表現			
第 6 回：家や部屋についての表現			
第 7 回：機器や装置の取り扱いの表現			
第 8 回：復習1			
第 9 回：買い物での店員とのやり取り			
第 1 0 回：電話の表現と留守番電話のメッセージ			
第 1 1 回：日常生活における、依頼・不平・提案の表現			

第 1 2 回：公共の場所におけるアナウンスの表現

第 1 3 回：公共の場所における受付でのやり取りの表現

第 1 4 回：復習2

第 1 5 回：期末テストとまとめ

テキスト

Real-World Listening: Ehime University Edition (センゲージ・ラーニング)

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

授業中の活動：30%

小テスト・課題など：40%

期末テスト：30%

授業科目名： 英語Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： ジュリア・カワモト ジェーン・ワタナベ パク・マン・アウ スコット・ウェバー
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業の到達目標及びテーマ			
【到達目標】			
1. 自分の考えを、英語で積極的に発信しようとする態度を示すことができる。			
2. 英語の文章を作成するための基本的な事柄（具体的には、プロセス・ライティング、 パラグラフ・ライティング）について、理解することができる。			
3. 基本的な文法・語法や語彙の使い方について、理解することができる。			
4. 日常生活での話題や社会性のある話題について、ある程度、まとまりのある文章を書くこ とができる。			
5. 他者が書いた文章に対して、適切なアドバイスを与えることができる。			
【テーマ】			
英語を使って情報を入手し、積極的にコミュニケーションを図る態度と能力を身につけるこ とを目的とする。特に、英語の文章を作成する上での基本を身につけ、日常生活の話題につい てまとまりのある文章が書けることを目指す。			
授業の概要			
ライティング能力を身につけることに焦点を当てるが、4技能を結びつけて総合的に英語力を 向上させる授業を行う。			
授業計画			
第 1 回：プロセス・ライティングの方法			
第 2 回：自己紹介の英文パラグラフを書く			
第 3 回：書式と文章の構成を考える			
第 4 回：統一のとれた、一貫性のあるパラグラフについて			
第 5 回：ブレイン・ストーミングでアイデアをひろげる			
第 6 回：ピアレビューとピアエディティング			
第 7 回：トピック・センテンスを書くルール			
第 8 回：トピック・センテンスを書く練習			
第 9 回：サポーティング・センテンスを書くルール			
第 1 0 回：サポーティング・センテンスを書く練習			

第11回：ディテール・センテンスを書くルール

第12回：ディテール・センテンスを書く練習

第13回：コンクルーディング・センテンスを書くルール

第14回：コンクルーディング・センテンスを書く練習

第15回：期末テストとまとめ

テキスト

Writing Collaboratively AY2022 (愛媛大学生協)

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業中の活動：30%

小テスト・課題など：40%

期末テスト：30%

授業科目名： 情報リテラシー入門Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 佐々木 隆志
			担当形態： 単独
科 目	免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
【到達目標】			
(1) データや情報を収集または配信する手段として、インターネットや電子メールを活用できるようになる。			
(2) ネットワークのセキュリティや数理的背景を理解できるようになる。			
(3) データと情報の違いについて理解できるようになる。			
(4) ネットワークを用いたデータ取得とデータ分析の数理について理解できるようになる。			
【テーマ】			
世の中がデータ駆動型の社会へと大きく様変わりしていることを踏まえて、データを転送するネットワークのセキュリティと数理的背景を理解した上で、コンピュータを用いてデータをどのように取得し利用するのかをデータサイエンスの重要性と共に理解する。			
授業の概要			
・ この科目は非同期型の遠隔授業になりますので、Moodle でコースのe-ラーニング教材を確認してください。			
・ コンピュータ演習には MS Office 2019 を使用します。			
・ 授業で扱う内容は、教科書の1章～7章と 9 章です。			
1章 パソコンの基本操作			
2章 情報セキュリティ			
7章 情報利活用：文書作成			
3章 ネットワークの利用			
6章 ネットワークとネットサービス			
4,5章 コンピュータ、情報とデータ			
9章 情報利活用：プレゼンテーション			
授業計画			
第1回 PC利用の基本とセキュリティ			
第2回 データや情報の収集と配信			
第3回 レポート作成			

第4回 ネットワーク利用における安全対策

第5回 インターネットの数理的背景

第6回 データと情報の数理

第7回 プレゼンテーション資料作成

第8回 期末試験とまとめ

テキスト

- ・情報リテラシー入門 2022 年版（日経 BP 社編、日経 BP 社 2022）

教科書以外で授業に必要な資料は、eラーニング教材としてMoodleで配布

参考書・参考資料等

- ・ひと目でわかる Windows 10 Home/Pro 対応（ジャムハウス・井上 健語著，日経 BP 社 2015）

- ・Word 2019 基礎 セミナーテキスト（日経 BP 社著、日経 BP 社 2019）

- ・PowerPoint 2019 基礎 セミナーテキスト（日経 BP 社著、日経 BP 社 2019）

授業で取り上げられなかったeラーニング教材にも学生が自主的にアクセスして学習することができる。

学生に対する評価

期末試験で到達目標 (1), (2), (3), (4) を評価する。

授業科目名： 情報リテラシー入門Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 本田 理恵 佐々木 隆志 担当形態： クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業の到達目標及びテーマ			
【到達目標】			
(1) 表計算ソフトによる表計算ができ、簡単なデータ処理とデータの可視化ができるようになる。			
(2) 表計算ソフトによる実データの分析を通してデータサイエンスの基本的な活用法を理解する。			
(3) AI の基礎的知識と、AI が社会でどのような分野で利用されどのようなリスクがあるか、さらにどのようなことに留意すべきかを理解する。			
(4) Word, PowerPointを用いて自分の考えを表現できるようになる。			
【テーマ】			
世の中がデータ駆動型の社会へと大きく様変わりしていることを踏まえて、データサイエンスとAIについて理解を深める。具体的には、表計算ソフトを用いたデータの可視化や実データの分析を通してデータサイエンスの基本的な活用法を理解できるようになる。また、AIの基礎的知識を習得し、AIとデータの関係を理解した上でAIが社会のどのような分野で利用され、どのようなリスクがあるか、さらにどのようなことに留意すべきかを理解することができるようになる。			
授業の概要			
・この科目は非同期型の遠隔授業になりますので、Moodle でeラーニングコースの教材を確認してください。			
コンピュータ演習には MS Office 2019 を使用します。			
・授業で扱う内容は、教科書の5章、8 章、9章です。			
5章 情報とデータ			
8章 情報利活用：表計算			
9章 情報利活用：プレゼンテーション			
授業計画			
第1回 データ活用のための表計算ソフト			
第2回 データの可視化			

第3回 実データの分析

第4回 データとAIの関わり

第5回 AIの利用とリスク

第6回 データ・AI活用事例の資料作成 (Word, を利用)

第7回 データ・AI活用事例の資料作成 (PowerPointを利用)

第8回 期末試験とまとめ

テキスト

- ・情報リテラシー入門2022年版 (日経BP社編、日経BP社 2022)

教科書以外で授業に必要な資料は、eラーニング教材としてMoodleで配布する。

参考書・参考資料等

- ・ひと目でわかる Windows 10 Home/Pro 対応 (ジャムハウス、井上 健語著、日経 BP 社 2015)
- ・Word 2019 基礎 セミナーテキスト (日経 BP 社著、日経 BP 社 2019)
- ・Excel 2019 基礎 セミナーテキスト (日経 BP 社著、日経 BP 社 2019)
- ・PowerPoint 2019 基礎 セミナーテキスト (日経 BP 社著、日経 BP 社 2019)

授業で取り上げられなかったeラーニング教材にも学生が自主的にアクセスして学習することができる。

学生に対する評価

レポート(60点)と期末試験(40点)で到達目標 (1), (2), (3), (4) を評価する。

授業科目名： 教育原論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上地 完治
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 教育に関する基礎的な知識や思想、基本的な問題を理解し、それらについての知識を用いて教育について自分の考えを持つことができる。			
2. 教育に関する多様で相矛盾するような見方を知ることによって、教育を批判的に深く考えることができる。			
3. 学校で「教えること」「学ぶこと」について理論的に深く考えることができる。			
4. 学校教育の理念と目的、歴史的展開と現代の課題について深く理解することができる。			
授業の概要			
本講義では、（１）教育を考えるための基本的知識や教育を成り立たせている理論的基盤について理解し、（２）教えることと学ぶことについての理解を深め、（３）学校の理念や歴史的変遷を考察し、（４）今日の学校教育を取り巻く様々な問題について解説するとともに、学生自身がこうしたことについて批判的に考える機会を提供する。			
授業方法としては、講義を中心に、グループや受講者全体でのディスカッション、受講者個人の意見発表とその意見をめぐるディスカッションなどをおこなう。			
授業計画			
第1回：オリエンテーションー教育とは何か、教育学とは何かー			
第2回：子ども・家庭・学校・国家から見た教育			
第3回：教育の理念と本質（１）ー教育はなぜ必要なのかー			
第4回：教育の理念と本質（２）ー教育の「工作モデル」と「植物モデル」ー			
第5回：教育関係の基本構造			
第6回：アリエス『＜子供＞の誕生』と子ども論の展開			
第7回：近代以前の教育の歴史			
第8回：近代学校教育の成立と展開			
第9回：20世紀における教育の変遷ーデューイの進歩主義教育とエッセンシャルイズムー			
第10回：教えることと学ぶこと（１）ー学習の従来モデルから新しい学びへー			
第11回：教えることと学ぶこと（２）ーPISA型の学びと教師の役割ー			
第12回：ノールの教育関係論と体罰問題			
第13回：不登校「問題」を通して学校を考えるー不登校の何が問題かー			

第14回：家庭や社会の変化から見た学校の意義

第15回：みんなでこれからの学校の役割を考える

定期試験

テキスト

必要な資料については適宜配付します。

参考書・参考資料等

- ・ 広田照幸『ヒューマニティーズ 教育学』岩波書店、2009年。
- ・ フィリップ・アリエス『＜子供＞の誕生』みすず書房、1980年。
- ・ 小針誠『教育と子どもの社会史』梓出版社、2007年。
- ・ 柏木恭典・上野正道・藤井佳世・村山拓『学校という対話空間』北大路書房、2011年。
- ・ 眞壁宏幹『西洋教育思想史』慶應義塾大学出版会、2016年。
- ・ 守屋淳・澤田稔・上地完治『子どもを学びの主体として育てる』ぎょうせい、2014年。
- ・ 桑田真澄・佐山和夫『スポーツの品格』集英社、2013年。
- ・ 奥地圭子『東京シュレー物語』教育史料出版会、1991年。
- ・ イヴァン・イリッチ『脱学校の社会』東京創元社、1977年。

学生に対する評価

試験（60%）、授業中の課題レポート（40%）で評価します。

授業科目名： 教職基礎論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 白松 賢、高橋 平徳
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
教職への真の一体感・使命感・意欲を形成する前提として真摯な自己吟味をするため、教職の意義と教員の役割、教員の身分・資格、職務内容、学校の現状と求められる教師像を理解し、教師としての自己成長の方途について考えることができる。			
（１）教職の意義と教員の役割、教員の身分・資格、職務内容、学校の現状と改革動向、社会が求める教師像について確かな知識と理解をもち、分かりやすく説明できる。			
（２）教員生活の現状を知り、それを自身の進路選択の参考とすることができる。			
（３）教師としての成長という観点から、今後の学修をロードマップとして構成することができる。			
授業の概要			
教職への一体感を目指して、教育法規、教育原理、教育史、教師の生活世界についての基礎知識を基とした概論やディスカッションを通して、基礎的知識・理解を深める。また自己の適性についても自己評価する。			
授業計画			
第 1 回： イントロダクション ―教師の職業世界―			
第 2 回： 教職への信頼のゆらぎ（１） ―不祥事から考える服務上・身分上の義務―			
第 3 回： 教職への信頼のゆらぎ（２） ―保護者・地域社会からの信頼の変化―			
第 4 回： 教職の世界を理解する ―教師の仕事と職務内容―			
第 5 回： 教職を取り巻く社会の変化 ―チーム学校の必要性―			
第 6 回： 教師に求められる資質能力とは			
第 7 回： 公教育制度の成立と教職 ―教職の社会的必要性―			
第 8 回： 教師研究の方法（１） ―ライフサイクル論―			
第 9 回： 教師研究の方法（２） ―ライフヒストリー論―			
第 10 回： 現場の教員に学ぶ （実地指導講師講話）			
第 11 回： ＜教師の成長＞と研修・身分保障			
第 12 回： ＜学び続ける教師＞へ ：生涯学習の必要性			
第 13 回： 自己の適性を考える（１） ―自己実現目標としての教師像―			

第14回：自己の適性を考える（2）－自己教育課題の明確化－

第15回：まとめ－教職をめざした学習ロードマップを創ろう－

テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示）

文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示）

参考書・参考資料等

白松賢 2017『学級経営の教科書』東洋館出版社

学生に対する評価

レポート30%、テスト50%、講義中のワークや課題20%

授業科目名： 教育制度論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 露口 健司、山田 誠
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
教職にとって必要な社会的、制度的、経営的事項の基礎を理解し、他者に説明できるようになる。また、連携・協働と安全管理については、理解と共に実践しようとする態度を持つ。 （１）教育制度改革の現代的動向を理解し、説明することができる。 （２）公教育制度を支える基本的な教育法規について理解し、説明することができる。 （３）学校を取り巻く連携・協働や安全管理についての理論と方法を理解し、実践しようとする態度を持つ。			
授業の概要			
前半は総論編（第１回～第５回）、後半は各論編（第６回～第１５回）である。後半は事例分析を中心に、アクティブな学びとなるように授業を構成する。			
授業計画			
第１回：現代の学校・社会教育を取り巻く環境変化			
第２回：現代の教育制度改革動向			
第３回：現代の学校改革動向			
第４回：国及び地方の教育課程行政			
第５回：学校におけるマネジメントとリーダーシップ			
第６回：現代の教育制度と民主主義：社会関係資本の視点から			
第７回：現代の教育制度と市場主義：契約的信頼と関係的信頼			
第８回：「チーム学校」と教職員のチームワーク			
第９回：国及び地方の学力向上戦略			
第１０回：体罰問題と学校危機管理			
第１１回：いじめ問題と学校危機管理			
第１２回：不登校問題と学校危機管理			
第１３回：防災問題と学校危機管理			
第１４回：学校・家庭・地域の連携協働：コミュニティ・スクール論			
第１５回：成人教育と生涯学習：教育の社会的成果とは何か？			
定期試験			

テキスト

篠原清昭編著（2018）『教育の社会・制度と経営』ジダイ社

参考書・参考資料等

解説教育六法編修委員会（2021）『教育六法』三省堂

諏訪英広・福本昌之（2021）『新版 教育制度と教育の経営』あいり出版

篠原清昭・大野裕己（2020）『Withコロナの新しい学校経営様式』ジダイ社

露口健司編著（2016）『つながりを深め子どもの成長を促す教育学』ミネルヴァ書房

露口健司編著（2016）『ソーシャル・キャピタルと教育』ミネルヴァ書房

福岡県小学校長会編（2016）『社会に開かれた学校経営の展開』ぎょうせい

露口健司編著（2015）『学力向上と信頼構築』ぎょうせい

篠原清昭編著（2013）『教育のための法学』ミネルヴァ書房

露口健司著（2012）『学校組織の信頼』大学教育出版

篠原清昭編著（2012）『学校改善マネジメントー課題解決への実践的アプローチ』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

毎回提出のワークシート（約50%）、講義中の課題（約10%）、最終テスト（約40%）を総合的に評価する。

授業科目名： 発達と学習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 橋本 巖、水口 啓吾
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
教員免許法が指定する教職必修科目のうち、「教育の基礎的理解に関する科目」である。おもに教育心理学的立場から行われる講義を受けて、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。各テーマとテーマごとの到達目標は下記の通りである。 （テーマ1）幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。 1）幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。 2）乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。 （テーマ2）幼児、児童及び生徒の学習の過程 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。 1）様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。 2）主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。 3）幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。			
授業の概要			
教師は、子どもの生涯発達の一時期を共有し、その発達を支援する者として位置づけられる。そのため、本授業では幼児、児童、生徒を中心とした人間の心身の発達と学習の過程に関する心理学の基本的な研究成果を概観し、教師にとって必要な心理学的な基礎知識を習得することを目指す。講義内容は、①子どもの発達の諸側面、②子どもの学習に関する側面に大別される：①については、人間の言語及び認知機能（記憶、メタ認知、知能など）の発達、自己の形成過程、集団における人間関係の形成など社会性の発達や問題などを解説する。②については、学習の基礎的メカニズムや動機づけの理論を学び、①での発達理解との関連で、「主体的・対話			

的で深い学び」を支える基礎的な考え方と指導法などを解説する。この授業は講義中心で展開するが、受講者参加型の心理調査や質問も取り入れながら、子どもの発達や学習を心理学的な視点で捉える機会を提供する。なお、本授業では理論を提示するのみならず、多くの事例を積極的に取り上げ、学生に具体的な教育現場のイメージを持たせつつ解説していくこととする。

授業計画

- 第 1 回：授業の概要（発達理解の意義、育成を目指す資質・能力の柱、等に関する解説）
- 第 2 回：発達と学習の基礎（遺伝と環境の相互作用・身体運動発達・ヒトの発達の特徴など）
- 第 3 回：発達段階と教育（発達の段階理論と移行・発達の最近接領域・など）
- 第 4 回：社会性の発達（1）（アタッチメント・社会性の萌芽など）
- 第 5 回：社会性の発達（2）（仲間関係の発達・道徳性の発達・思いやり など）
- 第 6 回：自己の発達（自己像の認知・「反抗期」・自己制御・アイデンティティ発達、など）
- 第 7 回：情動の発達（感情の理解と表出・自己意識的感情・ストレスとコーピングなど）
- 第 8 回：言語の発達（共同注意・認知的制約理論・自己中心的発話・学校教育と言語など）
- 第 9 回：記憶の発達（短期記憶や長期記憶・宣言記憶と手続記憶・記憶方略など）
- 第 10 回：認知の発達（素朴概念と心の理論・メタ認知・知能の種類や非認知的能力など）
- 第 11 回：学習のしくみ（条件づけ・観察学習・情報の理解と知識など）
- 第 12 回：動機づけ（外発的動機づけや内発的動機づけ・学習性無力感・自己効力など）
- 第 13 回：教師と子どもの人間関係（教師期待効果・学級風土・集団づくりなど）
- 第 14 回：学習の指導と評価（「主体的・対話的で深い学び」の視点と指導法・学習評価など）
- 第 15 回：総括および試験（発達を踏まえた援助や指導のまとめと質問への回答）

テキスト

特に指定書籍はないが、学習指導要領（文部科学省、最新版、クラスの対応校種によって指示）を教科書に準ずるものとして使用する。

参考書・参考資料等

- ・「絶対役立つ教育心理学」藤田哲也（編著）ミネルヴァ書房
- ・「発達をうながす教育心理学」山岸明子（著）新曜社
- ・「発達と学習の心理学」弓野憲一（編）ナカニシヤ出版
- ・「学ぶ意欲を育てる人間関係づくり」中谷素之（編著）金子書房
- ・生徒指導提要（特に第三章、児童期、青年期の発達に関する部分）文部科学省

学生に対する評価

毎回の授業後に、授業の感想や理解度の把握を行うため、コメントシートの提出を求める。また、期末試験または期末レポートを課す。これらをもとに、総合的に評価する。なお、学生の理解に応じて、中間試験を課すこともある。

授業科目名： 特別支援教育の基礎 ・基本	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：加藤哲則、檜木 暢子、荻田知則、立入哉、富 田享子、中野広輔、吉松靖文 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
1．特別支援教育、及びインクルーシブ教育の現状を知り、発達障害等のある幼児児童生徒（ またはその疑いのある子を含む）の正しい理解と認識を深めるとともに、特別支援教育・イン クルーシブ教育の本質及び、目標と今日的課題を理解できる。			
2．教育学・心理学・医学・教育工学等の観点から、通常の学級に在籍する幼児児童生徒の中 で、いわゆる「気になる子、個別の支援や教育的配慮が必要な子」への対応について、概要を 理解できる。			
3．視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病虚弱、言語障害等、いわゆる「障害があ る子」も、現在では通常の学級に在籍することも多いことから、これらの「障害がある子」へ の対応についても、概要を理解できる。			
4．多様な障害に関する知識・技能に加え、特別な支援を必要とした幼児・児童・生徒に携わ ろうと思える意欲と関心、特別支援教育を内包した教育としての教育に携わる教員としての態度 を身につける。			
授業の概要			
障害者の権利に関する条約への批准、関連する国内法の整備に伴い、本法の教育現場では、 「人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発 達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害 のない者が共に学ぶ仕組み」としてインクルーシブ教育システムの構築が急務となっている。 本授業では、発達障害等のある子（またはその疑いのある子を含む）をはじめとして、様々な 困難・障害のある子への正しい理解と認識を深めるために、特別支援教育・インクルーシブ教 育の理念・本質、目標、現状と今日的課題について概説する。			
その上で、教育学・心理学・医学・教育工学等の観点から、通常の学級に在籍する児童生徒 の中で、いわゆる「気になる子、個別の支援や教育的配慮が必要な子」への教育的対応や合理 的配慮、指導法について概説する。			
授業計画			
第1回：特別支援教育、インクルーシブ教育とは（担当：立入哉）			
第2回：障害者の権利に関する条約と合理的配慮、及び国内関連法（担当：加藤哲則）			

- 第3回：見る・読む困難への対応（LD、視覚障害等）（担当：荏田知則）
- 第4回：聞く困難への対応（LD、AD/HD、聴覚障害等）（担当：加藤哲則）
- 第5回：話す困難への対応（構音障害、吃音、LD、自閉症スペクトラム障害等）
（担当：荏田知則・加藤哲則）
- 第6回：動く・書く困難への対応（発達性協調運動障害、LD、肢体不自由等）（担当：中野広輔）
- 第7回：理解する困難への対応（LD、知的障害、ボーダー域知能等）（担当：富田享子）
- 第8回：推論する困難への対応（自閉症スペクトラム障害、LD等）（担当：富田享子）
- 第9回：計算する困難への対応（LD等）（担当：吉松靖文）
- 第10回：健康問題への対応（病弱、医療的ケア等）（担当：中野広輔）
- 第11回：障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒への対応（他職種・他機関との連携）
（担当：樫木暢子）
- 第12回：特別支援教育推進体制（通級による指導、自立活動、校内委員会等）（担当：樫木暢子）
- 第13回：合理的配慮と基礎的環境整備（学習指導要領、個別の指導計画、教育支援計画の作成）
（担当：吉松靖文）
- 第14回：福祉・教育工学的アプローチ（支援機器等の教材活用）（担当：荏田知則）
- 第15回：最終試験、総括（担当：立入哉）

テキスト

花熊暁、笠井新一郎、荏田知則編著(2020)特別支援教育概論、建帛社

参考書・参考資料等

- 文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月）
- 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月）
- 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月）
- 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年3月）
- 文部科学省 特別支援学校幼稚部教育要領（平成29年4月）
- 文部科学省 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月）
- 文部科学省 特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年2月）

学生に対する評価

最終成績は、定期試験の成績8割、ミニレポートの成績2割を目安として総合的に評価・判断する。

授業科目名： 総合的な学習の時間の 指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 兵藤 清一、藤原 一弘 担当形態： クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に 関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 総合的な学習の時間の目的や意義、理念などについて、創設までの歴史的経緯や他国における 探究的な学習との比較から理解し、学習指導要領及びその解説に基づいたカリキュラム・単元 をデザインする。具体的な到達目標は次の通りである。 （１）総合的な学習の時間における指導の在り方、児童生徒への支援及び評価方法、児童生徒 が身に付けるべき資質・能力とのその指導方法について、学習指導要領や解説、及び事例を 基に説明することができる。 （２）他の教科との関連や活用を図り、探究的な学びを実現するカリキュラムをデザインする 基礎を身に付け、現代的な課題や実態に即した授業を構想することができる。 （３）総合的な学習の時間の意義や可能性、課題について諸理論を参考に、指摘することがで きる。			
授業の概要 総合的な学習の時間の意義や目的、その重要性などについて創設までの歴史的経緯を概観し、 諸外国における探究的な学習との比較を行うことで理解を深めるとともに、事例検討やディス カッション、演習等を通して教科横断的で探究的な学びを構築するための授業づくりについて 学び、その指導方法や評価方法について習得すること、現代的な課題や地域の実態に応じたカ リキュラムをデザインすることができるようになることを目指す。			
授業計画 第１回：総合的な学習の時間創設の経緯と変遷、目的 第２回：総合的な学習の時間の現状と課題、諸外国の探究的な学び 第３回：現代的諸課題と総合的な学習の時間 第４回：教科学習と総合的な学習の時間 第５回：実例から学ぶ 第６回：単元構想・カリキュラム開発（１） 探究課題・目標・内容について 第７回：単元構想・カリキュラム開発（２） 指導方法・学習形態・評価について 第８回：これからの総合的な学習の時間 探究的で深い学びの実現			

テキスト

- ・「小学校学習指導要領解説」（総合的な学習の時間編）文部科学省、東洋館出版社、平成 29 年 7 月
- ・「中学校学習指導要領解説」（総合的な学習の時間編）文部科学省、東山書房、平成 29 年 7 月
- ・「高等学校学習指導要領解説」（総合的な探究の時間編）文部科学省、学校図書、平成30年 7月

参考書・参考資料等

- ・平成 29 年度改訂小学校教育課程実践講座（総合的な学習の時間）、田村学編、ぎょうせい、平成 29 年 10 月
- ・平成 29 年度改訂中学校教育改訂実践講座（総合的な学習の時間）、田村学編、ぎょうせい、平成 29 年 10 月
- ・カリキュラムマネジメント入門、田村学（編著）、東洋館出版社、平成29年2月

学生に対する評価

最終レポート（40％）、単元案の作成（30％）、毎授業のリフレクションシート（20％）授業への参加意欲・態度（10％）を基に総合的に評価する。

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 白松 賢、城戸 茂、 梅田 崇広
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業の到達目標及びテーマ			
特別活動の教育課程上の意義や役割を理解し、様々な集団活動を通じて児童生徒相互のよさや可能性を発揮し、集団や自己の生活上の課題を解決するための実践内容を具体的な事例とともに説明することができる。「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点をもとに特別活動を通じて育む資質・能力を説明できるとともに、指導や取り組みの評価・改善の重要性を説明する事ができる。 1) 特別活動の教育課程上の意義や役割、主な内容を説明することができる。 2) 具体的な事例を踏まえて、特別活動の指導方法や評価のあり方が説明できる。 3) 学校生活をよりよく充実させるための実践プログラムを提案することができる。			
授業の概要			
特別活動の実践的指導力の育成を目指して、教育課程上の意義や役割、目標や内容について基礎知識を習得し、実際の学級活動を模擬的に体験することやグループワークなどを通して具体的な実践例を体験的に学ぶ。そして学校をさらに充実させるための特別活動実践プログラムを考察し、プレゼンテーションを行う。			
授業計画			
第1回：特別活動の教育課程上の意義・役割・内容			
第2回：学級活動・ホームルーム活動(1)の内容と合意形成の方法（社会参画の視点）			
第3回：学級活動・ホームルーム活動(2)(3)の内容と意思決定の方法（自己実現の視点）			
第4回：生徒会活動を通じた自発的、自治的活動の充実			
第5回：学校行事の内容と指導法 - チーム学校の視点を踏まえて-			
第6回：人間関係形成のための実践事例（GWT、チームワーク・ビルディング等）			
第7回：特別活動と学校生活の充実 - 指導の改善と評価を踏まえて-			
第8回：よりよい学校生活のための実践プログラムを提案しよう			
テキスト			
文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示）			

文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（平成29年7月）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』（平成30年7月）

参考書・参考資料等

適宜、授業プリントを使用する。

学生に対する評価

授業中の小レポート（40％）、授業中の確認テスト（30％）、
最終プレゼン・レポート（30％）

授業科目名： 教育の課程と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤原 一弘、富田 英司 担当形態： 複数・オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） ・教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標 教育課程は教育の目的に応じて諸活動を配置する計画のことであり、教育方法は学習内容を教える方法に関するものであり、あらゆる科目の教え方の原理を扱う。この授業ではこれらについて、理論と関連づけながら具体的な教え方と実際の方法を学ぶ。 (1) 学習指導要領の変遷を通して現在の学習指導要領のねらいを理解する（知識・思考） (2) 教育課程と教育方法に関する基本原理、カリキュラム・マネジメント、アクティブ・ラーニングの概念などを理解する（知識・思考） (3) 学習指導要領やその他の重要教育行政文書の内容に基づき、主体的・対話的で深い学びのためのカリキュラム例を提案することができる（技能・表現） (4) 規則や制度を生かし、組織の一員としての責任を果たしながら、同時に教育者として主体的に教育への取り組みを構想しようとする態度を育む（意欲・関心・態度等）			
授業の概要 この授業では、中学校及び高等学校の教育課程について、（a）学習指導要領に関する理解と活用方法、（b）21世紀型の学力の概要とそれを育成するためのカリキュラムの設計に関する考え方、（c）カリキュラム編成の方法、（d）カリキュラム編成における現代的課題の理解、の4点について学びます。教育方法に関しては次の3つの柱を中心に展開します：（e）教育評価の考え方と方法、（f）アクティブ・ラーニングの考え方と方法、（g）学習指導案の書き方の考え方と方法。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（授業概要）（担当：藤原・富田） 第2回：学習指導要領の変遷（担当：藤原） 第3回：学習指導要領の読み方と使い方（担当：藤原） 第4回：カリキュラム編成の諸原理（担当：藤原） 第5回：21世紀型の学力とそのためのカリキュラムや学習方法（担当：藤原） 第6回：カリキュラム・マネジメント①：カリキュラムと授業のデザイン（担当：富田）			

第7回：カリキュラム・マネジメント②：PDCA サイクルと ICT を含むリソース活用

(担当：富田)

第8回：教科横断のカリキュラム展開：ケース・スタディ (担当：富田)

第9回：授業設計の考え方：インストラクショナル・デザインの活用 (担当：富田)

第10回：学習指導案と評価の基礎 (担当：富田)

第11回：指導と評価の一体化とパフォーマンス評価 (担当：富田)

第12回：主体的・対話的で深い学びの考え方とその設計 (担当：富田)

第13回：主体的・対話的で深い学びのための問題解決課題とは (担当：富田)

第14回：問題解決課題を組み込んだ授業設計 (担当：富田)

第15回：板書計画と情報環境の整備，講義のまとめ (担当：富田)

期末試験

テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成 29 年）

文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成 30 年）

参考書・参考資料等

田村学（著）『カリキュラム・マネジメント入門』、東洋館出版社、2017

富田英司（編著）・中川恵正研究室（著）『児童・生徒のためのモニタリング自己評価法：ワークシートと協同学習でメタ認知を育む』ナカニシヤ出版、2015年

ウィギンズ・マクタイ（著）『理解をもたらすカリキュラム設計』日本標準、2012

J.デューイ（著）、宮原誠一（訳）『学校と社会』岩波書店、1957年

J. S.ブルーナー（著）、鈴木祥蔵・佐藤三郎（訳）『教育の過程』岩波書店、1963年

学生に対する評価

期末試験（40%）、提出物（40%）、授業中の取組み状況に関する評価（20%）

授業科目名： 教育とICT活用	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大西 義浩、河村 泰之、 玉井 輝之
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
【目的】 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。			
【到達目標】 ・ 情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。 ・ 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。 ・ 児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。			
授業の概要			
情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方、並びに児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、ICTの活用の意義と理論			
第2回：ICT機器の基本的操作と指導法			
第3回：オンライン授業とシステムの使用法			
第4回：ICTを活用した校務の推進			
第5回：教育データを活用した指導と学習評価			
第6回：ICTを活用した教科の指導			
第7回：各教科において横断的に育成するICT活用指導力			
第8回：まとめ、外部機関との連携、ICT環境整備			
テキスト			
講義中に参考とする webサイトを示し、適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等
特になし
学生に対する評価
レポートと課題発表(100%)、期末試験は実施しない

授業科目名 生徒指導・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 城戸 茂、富田 英司 梅田 崇広
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 生徒指導の理論及び方法 ・ 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ 生徒指導および進路指導・キャリア教育の本質について考える。 以下の4点を到達目標として設定する。 1 生徒指導の定義と考え方、教育活動上の機能について説明できる。 2 現代的な生徒指導上の諸問題について、現状を分析し対策を説明できる。 3 生徒指導の基礎である児童生徒理解をすすめるための適切な態度や方法を説明・実践できる。 4 生徒指導と進路指導・キャリア教育の関係について説明することができる。			
授業の概要			
生徒指導は、学校教育における教科学習の内容以外に関する幅広い活動である。教育の目的が人格の完成にあることを考えると、生徒指導は学校生活のあらゆる場面で機能する必要がある。そのため、授業の前半では生徒指導の意義や原理、方法等の基礎を学ぶとともに、事例検討を通して生徒指導の機能を発揮させる方法を考える。後半では、生徒指導と密接に関連している進路指導について、キャリア教育の観点から理論的・実践的な検討を行う。これらの学習を効果的に進めるため、グループワークや討議を取り入れることがある。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：成長を促す指導に向けて			
第2回：生徒指導の意義・方法原理・位置づけ			
第3回：さまざまな教育活動ですすめる生徒指導			
第4回：生徒理解の意義と方法			
第5回：教育相談の意義と方法			
第6回：生徒指導体制の構築と家庭・地域・専門機関等との連携			
第7回：生徒指導に関する法制度			
第8回：中学校・高等学校における暴力・非行をめぐる生徒指導			
第9回：中学校・高等学校におけるいじめ・不登校をめぐる生徒指導			
第10回：中学校・高等学校におけるインターネット利用をめぐる生徒指導			

第11回：進路指導・キャリア教育の意義・方法原理・位置づけ

第12回：計画的・組織的にすすめる進路指導・キャリア教育

第13回：生徒一人一人の発達と課題によりそう進路指導・キャリア教育

第14回：学校段階間の接続をふまえた進路指導・キャリア教育の推進

第15回：まとめ：生徒指導と進路指導・キャリア教育の要点

テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』平成29年、もしくは同『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』平成30年

文部科学省『生徒指導提要』平成22年

文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』平成23年、もしくは同『高等学校キャリア教育の手引き』平成23年

参考書・参考資料等

適宜、授業プリントを使用する。

参考図書は適宜指示する。

学生に対する評価

1) 授業毎の小レポート（50%）

2) 期末課題（50%）

授業科目名： 教育相談論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 相模 健人
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
学生が現代の学校におけるいじめ、不登校などの問題の対応を教育相談の観点から学ぶ。特に子どもの問題に対して、いかに学校・家庭・地域といった学校システムが連携して対応できるか、その具体的手法について学ぶ。			
1）学校における教育相談の意義と課題を理解している。			
2）教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。			
授業の概要			
授業前半では教育相談について概説を行い、ミニシンポジウムなどの討論を通じて教育相談にかかわる意義と課題について考える。それ以降は事例を中心とし、カウンセリングに関する基礎的な理論・概念を学びながら、子どもにとって有効な関わりについて考える。			
授業計画			
第 1 回： ガイダンス 不登校、いじめの現状 本授業のスタンス(Guidance)			
第 2 回： 学校の問題行動の実態について(The actual situation of problem behavior in schools)			
第 3 回： 教育相談について(School Counseling)			
第 4 回： 子どものために教師には、スクールカウンセラーには何が出来るか？(ミニシンポ)(What can a teacher and a school counselor do for a child?)			
第 5 回： 事例Ⅰ （問題行動）(Case 1 problem behavior)			
第 6 回： カウンセリングについて その 1 学校場面への対応(Counseling 1)			
第 7 回： 不登校は学校に行かせるべきか？休ませるべきか？(ミニシンポ)(Should school refusal be sent to school? Should I rest?)			
第 8 回： 事例Ⅱ （不登校） 保護者との連携(Case 2 school refusal Collaboration with parents)			
第 9 回： カウンセリングについて その 2 教育相談場面での活用(Counseling 2)			
第 1 0 回： 実習 非言語的対応(Practice Non-verbal correspondence)			
第 1 1 回： 事例Ⅲ （不登校） 関係機関の連携 （Case 3 school refusal Collaboration with Related organizations)			

第12回：実習 傾聴技法(Practice Listening technique)

第13回：実習 個別面接技法(Practice Individual interview technique)

第14回：教員の対応について(Teacher Response)

第15回：総括的討論(General discussion)

テキスト

独自に作成したものを配布

参考書・参考資料等

〈参考書 1〉

書名：学校心理学 教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス

著者名：石隈 利紀、出版社：誠信書房、出版年：1999

〈参考書 2〉

書名：解決志向で子どもとかかわる—子どもが課題をのり越え、力を発揮するために

著者名：ジュディス・ミルナー(著), ジャッキー・ベイトマン (著), 竹之内 裕一 (翻訳), バレイ(佐俣)友佳子 (翻訳)

出版社：金剛出版、出版年：2019

〈参考書 3〉

書名：先生のためのスクールカウンセラー200%活用術

著者名：熊谷 恵子、出版社：図書文化社、出版年：2003

〈参考書 4〉

書名：今なぜスクールカウンセラーなのか

著者名：氏原寛, 村山正治編著、出版社：ミネルヴァ書房、出版年：1998

〈参考書 5〉

書名：やさしい思春期臨床—子と親を活かすレッスン

著者名：黒沢 幸子、出版社：金剛出版、出版年：2015

〈参考書 6〉

書名：サポートグループ・アプローチ 完全マニュアル—解決志向アプローチ＋ピア・サポートでいじめ・不登校を解決！

著者名：八幡 睦実 (著), 黒沢 幸子 (著)、出版社：ほんの森出版、出版年：2015

〈参考書 7〉

書名：ブリーフセラピーの極意

著者名：森 俊夫 (著)、出版社：ほんの森出版、出版年：2015

〈参考書 8〉

書名：スクールソーシャルワークとは何か その理論と実践

著者名：全米ソーシャルワーカー協会、出版社：現代書館、出版年：1998

〈参考書 9〉

書名：スクールソーシャルワークの可能性 学校と福祉の協働・大阪からの発信

著者名：山野 則子（著）、峯本 耕治（著）、出版社：ミネルヴァ書房、出版年：2007

〈参考書 10〉

書名：ポジティブ学級に変える！解決志向アプローチ入門（心理学 de 学級経営）

著者名：岩田 将英、出版社：明治図書出版、出版年：2015

〈参考書 11〉

書名：セラピストの技法 新版

著者名：東 豊（著）、出版社：日本評論社、出版年：2019

〈参考書 12〉

書名：教室での解決 うまくいっていることを見つけよう！

著者名：インスー・キム・バーグ、リー・シルツ著、出版社：BFTC Press、出版年：2005

〈参考書 13〉

書名：解決のための面接技法 ソリューション・フォーカスト・アプローチの手引き 第4版

著者名：ピーター・ディヤング、インスー・キム・バーグ著

桐田弘江, 玉真慎子, 住谷祐子訳

出版社：金剛出版、出版年：2008

〈参考書 14〉

書名：教室での解決 コーチング編

著者名：インスー・キム・バーグ、リー・シルツ著、出版社：BFTC Press、出版年：2006

〈参考書 15〉

書名：森・黒沢のワークショップで学ぶ解決志向ブリーフセラピー

著者名：森俊夫, 黒沢幸子著、出版社：ほんの森出版、出版年：2002

〈参考書 16〉

書名：保健室からの登校—不登校児への支援モデル

著者名：國分 康孝（著）、門田 美恵子（著）、出版社：誠信書房、出版年：1996

〈参考書 17〉

書名：解決志向のクラスづくり 完全マニュアル—チーム学校、みんなで目指す最高のクラス！

著者名：黒沢幸子（著）、渡辺友香（著）、出版社：ほんの森出版、出版年：2017

〈参考書 18〉

書名：学校臨床のヒント—SCのための73のキーワード

著者名：村山 正治、出版社：金剛出版、出版年：2007

〈参考書 19〉

書名：システムズアプローチによるスクールカウンセリング—システム論からみた

学校臨床[第2版]

著者名：吉川 悟（編集）、赤津 玲子（編集）、伊東 秀章（編集）

出版社：金剛出版、出版年：2019

〈参考書 20〉

書名：学校で活かすいじめへの解決志向プログラム：個と集団の力を引き出す実践方法

著者名：スー ヤング（著）、Sue Young（原著）、黒沢 幸子（翻訳）

出版社：金子書房、出版年：2012

学生に対する評価

各回の課題、授業内の討論、授業中の取り組み(以上40%)、最終レポート(60%)を踏まえて判断する。

授業科目名： 教職実践演習（中・高）		単位数： 2 単位		担当教員名： 教職担当：露口 健司、城戸 茂、橋本 巖 富田 英司、藤原 一弘、山田 誠 高橋 平徳、相模 健人、 梅田 崇広 教科担当：大西 義浩、河村 泰之	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○
受講者数 20 人 から 30 人					
教員の連携・協力体制 授業の実施・評価は、「教職担当」および「教科担当」の複数の教員によって行われる。その理由は、“学校教育”に関する内容を中心に教授している「教職担当」教員と“教科の指導法”に関する内容を中心に教授している「教科担当」教員、の組み合わせにして、相互の専門性を生かしながら、教員として求められる資質能力全般を評価するためである。例えば第10回～第14回には模擬授業や学校現場での活動等を行う【教科】の回であるが、これらは「教科担当」教員が評価の責任者となる。また第11回～第14回には教科内容に関わる教員（受講生所属学部の教員）も「補助教員」として参加し、学生の活動に助言や支援をして、授業内容を充実させる役割を担う。ただし評価には直接関わらない。 なお、第4回、第6回、第7回については、県内の小・中・高等学校や県や市の教育委員会等大学外の教育機関と連携し、外部講師（ゲストスピーカー）に講話をいただきグループ・ディスカッションをする【実践講話】の回とする。また、第4回については本学教育学部特別支援教育講座の教員がゲストスピーカーとして入り（直接は評価に関わらない）、特別支援教育についての講話、および事例を挙げて学生間のグループディスカッションを促す。					
授業の到達目標及びテーマ 以下の「教職課程のディプロマ・ポリシー」で示される知識・技能および資質能力を習得していることが、この授業の到達目標である。 1. 教科・教職に関する幅広い基礎知識と、得意分野の専門的知識を有している。 2. 学校現場で生じている問題を始めとして地域や社会全体に関わる課題について、適切な対応を考え議論することができる。 3. 幼児・児童・生徒の発達に応じた保育・授業の構成や教材・教具の工夫ができる。 4. 実践から学び、自己の学習課題を明確にして、理論と実践を結びつけた学習ができる。 5. 教育的愛情を持って幼児・児童・生徒に接することができるとともに、多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。 ※「教職課程のディプロマ・ポリシー」は愛媛大学全体で決めているものであるため、「幼児・児童」などの言葉が入る。					
授業の概要 一クラス20～30人の演習形式で実施する。ただし、第1回第Ⅲ期リフレクション・デイ、【実践講話】である第4、6、7回、第15回については「教職実践演習」受講者全員を2クラスに分け土曜日等も利用して実施する。教員免許状取得に関わる講義等で学んだ知識・技能や、教育実習や教育体験活動などの実践を通じて身につけた資質能力を確認するために、各授業回のテーマに応じ、テスト、DVDの視聴や実践講話の聴講とグループ・ディスカッション、指導案の					

作成や発表、ICTを活用した模擬授業やロールプレイ等を行って、各自の学習成果を総括する。

授業計画

第1回：第Ⅲ期リフレクション・デイ（これまでの教職課程での学びの省察と目標設定）

（担当：露口 健司、城戸 茂、橋本 巖、富田 英司、藤原 一弘、山田 誠、高橋 平徳、
相模 健人、梅田 崇広）

第2回：【教職】学習歴（教職課程学習ポートフォリオ）と教科・教職に関する基礎知識の確認（テスト）

（担当：露口 健司、城戸 茂、橋本 巖、富田 英司、藤原 一弘、山田 誠、高橋 平徳、
相模 健人、梅田 崇広）

第3回：【教職】学級づくりと幼児・児童・生徒への対応（事例研究）

（担当：露口 健司、城戸 茂、橋本 巖、富田 英司、藤原 一弘、山田 誠、高橋 平徳、
相模 健人、梅田 崇広）

第4回：【実践講話とグループ討議】特別支援教育

（担当：露口 健司、城戸 茂、橋本 巖、富田 英司、藤原 一弘、山田 誠、高橋 平徳、
相模 健人、梅田 崇広）

※ゲストスピーカー：教育学部特別支援教育講座教員

第5回：【教職】幼児・児童・生徒を取り巻く社会環境とその対応（『指導の具体案』づくり）

（担当：露口 健司、城戸 茂、橋本 巖、富田 英司、藤原 一弘、山田 誠、高橋 平徳、
相模 健人、梅田 崇広）

第6回：【実践講話】教員の職務と学校現場における課題（ICT 活用事例を含む）

（担当：露口 健司、城戸 茂、橋本 巖、富田 英司、藤原 一弘、山田 誠、高橋 平徳、
相模 健人、梅田 崇広）

※ゲストスピーカー：現職教員

第7回：【実践講話】学校の安全管理

（担当：露口 健司、城戸 茂、橋本 巖、富田 英司、藤原 一弘、山田 誠、高橋 平徳、
相模 健人、梅田 崇広）

※ゲストスピーカー：愛媛県教育委員会（校長経験者）

第8回：【教職】第5回の課題（『指導の具体案』）発表準備（ICT 活用を含む）

（担当：露口 健司、城戸 茂、橋本 巖、富田 英司、藤原 一弘、山田 誠、高橋 平徳、
相模 健人、梅田 崇広）

第9回：【教職】第5回の課題（『指導の具体案』）について模擬授業等による発表（ICT 活用を含む）

（担当：露口 健司、城戸 茂、橋本 巖、富田 英司、藤原 一弘、山田 誠、高橋 平徳、
相模 健人、梅田 崇広）

第10回：【教科】教育実習のふりかえり（教材や指導案の相互評価）

（担当：大西 義浩、河村 泰之）

第11回：【教科】実践活動 その1（現場での活動または模擬授業・授業研究（ICT 活用を含む）（1学年対象））

（担当：大西 義浩、河村 泰之）

※補助教員：受講生所属学部・教科内容担当教員

第12回：【教科】実践活動 その2（現場での活動または模擬授業・授業研究（ICT 活用を含む）（2 学年対象））

（担当：大西 義浩、河村 泰之）

※補助教員：受講生所属学部・教科内容担当教員

第13回：【教科】実践活動 その3（現場での活動または模擬授業・授業研究（ICT 活用を含む）（3 学年対象））

(担当:大西 義浩、河村 泰之)

※補助教員:受講生所属学部・教科内容担当教員

第14回:【教科】実践活動 その4(現場での活動または模擬授業・授業研究(ICT 活用を含む)(科目・分野別))

(担当:大西 義浩、河村 泰之)

※補助教員:受講生所属学部・教科内容担当教員

第15回:学びの軌跡作り、自己の成長の確認と自己教育課題の総括

(担当:露口 健司、城戸 茂、橋本 巖、富田 英司、藤原 一弘、山田 誠、高橋 平徳、
相模 健人、梅田 崇広)

試験(最終確認)

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

Moodle上にアップロードしたeラーニング教材(一部は印刷して配布)

参考書:中学校学習指導要領(文部科学省、平成29年3月告示)、高等学校学習指導要領(文部科学省、平成30年3月告示)、特別支援学校学習指導要領(文部科学省、平成29年4月告示及び平成31年2月告示)

参考資料:実践講話を含む各回の授業内容に関する資料(プリント)については、初回に配布するとともに、必要に応じて適宜追加して配布する。Moodle上にもアップロードし掲載する。

学生に対する評価

各授業での課題・活動、教職課程学習ポートフォリオ、テスト、最終試験について、対応するDPに沿って最終的な評価を行う。配点の目安として、【教職】各授業での課題・活動25点、【教科】各授業での課題・活動25点、【実践講話】各授業での課題15点、教職課程学習ポートフォリオ10点、テスト15点、最終試験10点とする。